

2025 年度

年 報

(第 12 号)



社会福祉法人 ワゲン福祉会

ワゲン療育病院長竹

10 年先を見据えた抱負と課題

施設長 村上 研一

今年度は新たな 10 年間の一步を踏み出しましたが、様々な問題に直面した 1 年でもありました。

県内外からの長期入所・短期入所のご利用希望に応えるべく、昨年は 10 年間変更できなかったベッド増床という大きな決断に踏み切りましたが、昨今の人手不足（特に看護師・支援員）が災いして、せっかくの受け入れ枠を活かせないというジレンマに陥りました。

人手不足は日中の看護業務・支援業務の流れにも支障をきたし、これまで可能だった業務の見直しを余儀なくされたり、多忙な中でのインシデントや不適切な利用者接遇に関して、施設職員全員が根本的な問題を検証する必要に迫られました。

また戦争や物価高といった社会背景が施設の物資調達や運営資金に大きく影を落とし、様々な場面において節約や利用者ご家族の方々にご負担を強いることが多くなり、大変心苦しい状況が続いています。

私自身もこうした様々な問題に直面しながらも、施設を運営していくことの難しさと自分の至らなさを痛感しているところでありますが、自分の適性云々はともかくとしても、「施設で生活する入所者の皆さんを路頭に迷わせるわけにはいかない」という一心で、この難局を乗り切っていかなければならないと感じています。

10 年先の開設から 20 年を迎えた時に、今の試練が施設にとって必要不可欠なものであったと述懐できるよう、引き続き真摯に向き合っていきたいと思います。

今後とも施設の運営にご理解とご協力を宜しくお願い致します。

ワゲン療育病院長竹 基本理念・基本方針

基本理念

- ・ いかなる障害があろうとも、また、どのような境遇にあろうとも人はその存在価値において全て平等であり、等しくその人間性を尊重します。
- ・ 障害者と共に生きる文化を創造し発展させます。
- ・ 一人一人の思いを大切にして、ぬくもりのある医療・療育を実施します。

基本方針

- ・ 利用者を敬い、寄り添い、共に歩んでいくために、自らの立場を常に利用者に照らして「相手の痛みの分かる」振る舞いを心がけます。
- ・ 限られた条件下でも常に探求心を忘れずに、より質の高い医療的ケア・療育を提供すると同時に、職員の知識・技術の向上を目指します。
- ・ 職員が共に認め合い、助け合い、励まし合える職場作りを目指します。

目 次

<総括編>

I	沿革	5
II	施設概要	5
III	施設	6
IV	組織図	9
V	人事	10
VI	運営	11

<業務・統計編>

I 業務実績

1	入・退所者の動向	14
2	教育研修	19
3	看護部	21
4	薬剤科	31
5	栄養科	32
6	検査科	34
7	放射線科	35
8	リハビリテーション科	36
9	心理科	37
10	事務部	38

II 会議・委員会活動

1	入所調整会議	39
2	教育研修委員会	40
3	感染対策委員会	41
4	医療安全管理委員会	42
5	権利擁護・虐待防止委員会	44
6	衛生委員会	45
7	薬事委員会	46
8	栄養委員会	47
9	NST・褥瘡対策委員会	48
10	初回支援計画策定・モニタリング・サービス担当者会議	50
11	医療ガス安全管理委員会	52
12	施設行事・ボランティア委員会	53
13	防災対策委員会	55
14	情報管理・広報委員会	56
15	診療録管理委員会	57

III 所属団体・学会・研究業績等

1	所属団体	58
2	所属学会	58

IV 特別支援学校

V 神奈川県重症心身障害児者協議会の活動

総括編

I 沿革

2013 年 09 月 02 日	病床数 60 床の病院開設許可（外来開設許可含む）
2014 年 02 月 10 日	病院及びゴミ置場等工事完成 竣工
2014 年 03 月 10 日	病院開設 社会福祉法人相模更生会 ワゲン療育病院長竹
2014 年 03 月 28 日	医療型障害児入院施設として設置認可 療養介護・短期入所・医療型障害児入所施設として相模原市長指定
2014 年 04 月 01 日	業務開始（20 床 入院基本料 10：1） 保坂和子施設長 就任
2014 年 04 月 08 日	県立津久井養護学校長竹学級開始
2015 年 01 月 30 日	3 階病棟 20 床を追加開床（40 床 入院基本料 10：1）
2015 年 03 月 30 日	3 階病棟オープン入所者一部転棟
2015 年 06 月 25 日	ミールラウンド開始（おいおい歯科協働）
2015 年 06 月 12 日	多目的コンテナ 3 棟設置（運転員・ボランティア控室等）
2015 年 10 月 17 日	第 1 回家族会開催（会長：高山氏）
2015 年 12 月 01 日	社会福祉法人「ワゲン福祉会」に名称変更
2019 年 09 月 30 日	保坂和子施設長 退任
2019 年 10 月 01 日	村上研一施設長 就任
2023 年 11 月 01 日	入院基本料 13：1 となり看護補助加算 2 を算定
2024 年 04 月 01 日	1 階病棟 10 床を追加開床（届出病床数 50 床）

II 施設概要

名称	社会福祉法人ワゲン福祉会 ワゲン療育病院長竹
所在地	神奈川県相模原市緑区長竹 494-1 TEL 042-784-7227（代）
病院施設	敷地面積 : 2998.23 m ² 建物延べ面積 : 2993.10 m ²
建物構造	鉄筋コンクリート造 地上 3 階
開設日	2014 年 3 月 10 日
病院長	村上 研一
許可病床数	60 床（届出病床数 50 床）
標榜診療科目	内科、小児科、リハビリテーション科
保険指定	保険医療機関、生活保護指定、障害児者入所施設、障害児者短期入所
主な施設基準	【基本診療の施設基準に関する届出】 障害者施設等入院基本料 13：1、特殊疾患入院施設管理加算、看護補助加算 2、診療録管理体制加算 3、データ提出加算 1・データ提出加算 3、療養環境加算、4 級地地域加算 【その他の施設基準に関する届出】 入院時食事療養（Ⅰ）、障害児（者）リハビリテーション料、脳血管リハビリテーション料（Ⅲ）、入院ベースアップ評価料 32、外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ） 【福祉事業に関する届出】 療養介護Ⅰ-2、医療型短期入所サービスⅠ、医療型障害児入所施設Ⅰ（3） （2026 年 3 月 31 日現在）

Ⅲ 施 設

1 敷地面積 2998.23m²

2 建 物

1) 構造 鉄筋コンクリート造り 地上3階建

2) 床面積：2967.71m²（1階 693.67m² 2階 1263.46m² 3階 1010.58m²）

3) 居室：60床（許可病床50床）

居室の 種類	室 数			一室当たり 面積（内法）	一人当たり 面積	酸素	吸引	シンク 物入れ
	1 階	2 階	3 階					
2人部屋	2	2	2	23.31m ²	11.65m ²	○	○	○
4人部屋	4	4	4	32.93m ²	8.23m ²	○	○	○

4) 居室以外の設備

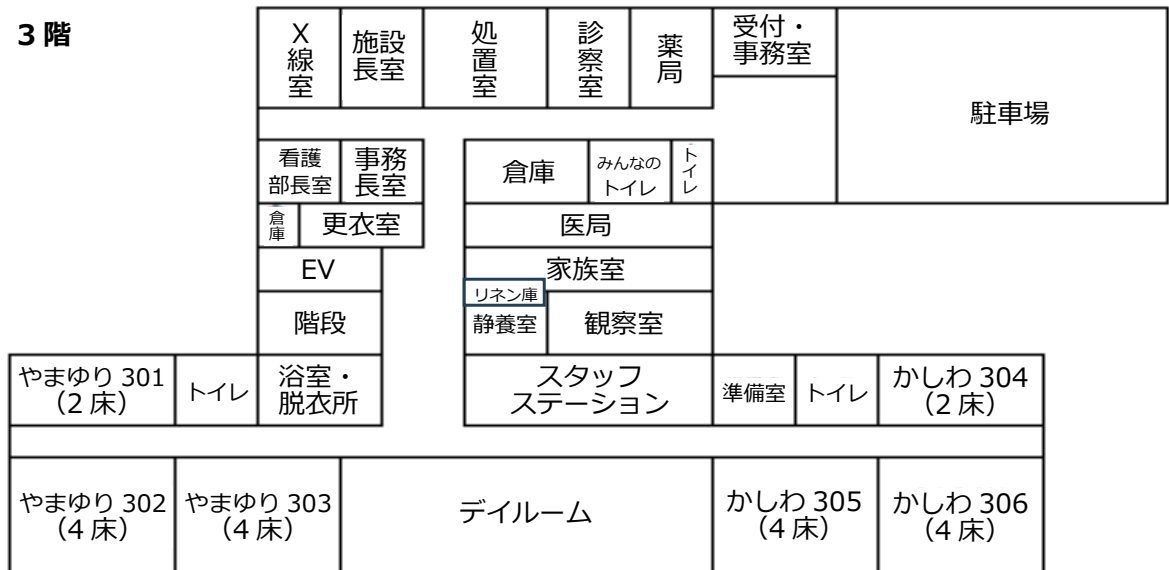
設 備	室 数			一室当たり 面積m ²
	1 階	2 階	3 階	
静養室	1	1	1	19.86
観察室	1	1	1	22.78
浴室:特浴	1	1	1	40.96
浴室 A	1	-	-	22.14
診療情報管理室 兼倉庫	-	1	-	54.84
便所：WC 1	1（特殊和便器）	1（特殊和便器）	1（特殊和便器）	12.45
WC 2（職員）	1	1	1	1.70
WC 3	1	1	1	5.27
WC 4	-	1（1.70）	1（2.36）	1.70～2.36
WC 5	-	1	-	1.70
WC 6（厨房）	-	1	-	2.04
ユーティリティ	-	1（11.65）	1（7.09）	7.09～ 11.65
スタッフステーション	1	1	1	33.01
食堂兼デイルーム	1	1	1	105.55
リハビリテーション室	-	1	-	125.02
スタッフ室	-	1	-	9.38
ST 室	-	1	-	13.65
スヌーズレン	-	1	-	34.12
CU（準備室）	1	1	1	9.14
DU（汚リネン）	1	1	1	8.56

設 備	室 数			一室当たり 面積 m^2
	1 階	2 階	3 階	
リネン室	1 (2.99)	1 (3.77)	1 (7.80)	2.99~7.80
倉庫 2	-	1 (4.10)	1 (6.58)	6.58~4.10
倉庫 1	-	1	1	4.58
倉庫 4	-	1	-	3.45
多目的室	-	1	-	4.96
家族室	-	-	1	32.92
会議室	-	1	-	36.00
洗濯室	-	1	-	21.17
厨房事務室	-	1	-	7.27
厨房更衣室	-	1	-	1.63
検収室	-	1	-	8.56
冷蔵庫	-	1	-	4.86
食品倉庫	-	1	-	5.48
調理場	-	1	-	28.16
配膳車プール	-	1	-	16.32
更衣室	-	1 (12.28) 男	1 (30.67) 女	12.28~30.67
事務室	-	1	-	20.78
応接室	-	1	-	16.15
薬局	-	-	1	12.97
物入れ	-	-	1	1.21
受付・事務	-	-	1	13.33
待合	-	-	1	10.79
診察室	-	-	1	13.53
処置室	-	-	1	13.53
X 線室	-	-	1	9.49
操作室	-	-	1	10.66
看護部長室	-	-	1	11.34
事務長室	-	-	1	10.81
院長室	-	-	1	13.53
医局	-	-	1	44.47
エレベーター	1	1	1	8.45
屋内・外避難階段	2	2	2	
バルコニー、避難路				

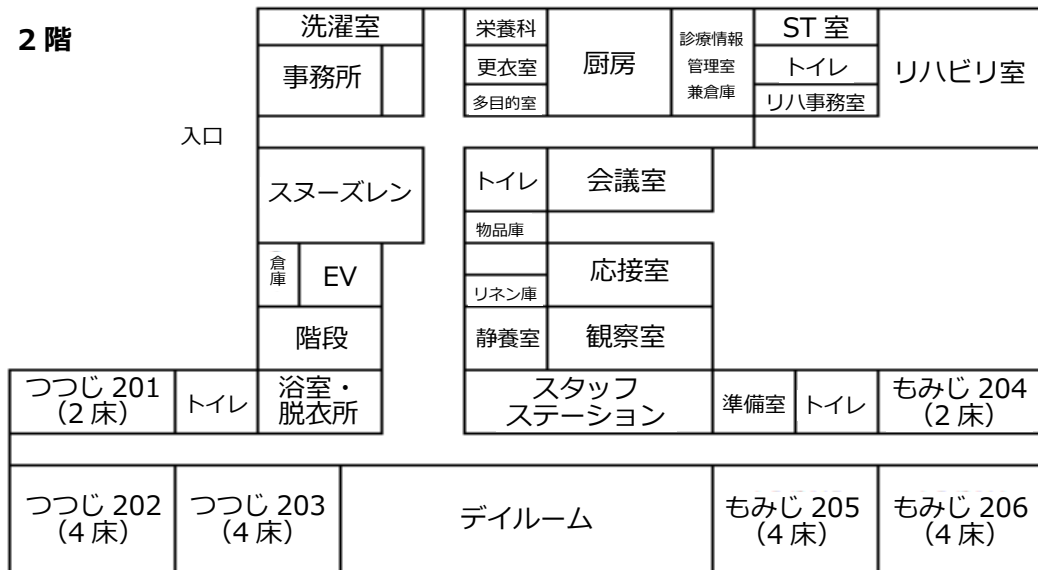
5) 付属設備：酸素マニホールド室 (7.8 m^2)、吸引機械室 (5.2 m^2)、ごみ庫 (7.0 m^2)、
廃棄物庫 (3.0 m^2)、特別管理産業(一般)廃棄物保管庫、給水ポンプユニット (7.26 m^2)、
汚水浄化槽制御盤、LP ガス供給設備、プレハブ小屋 (3 棟)

6) 見取図

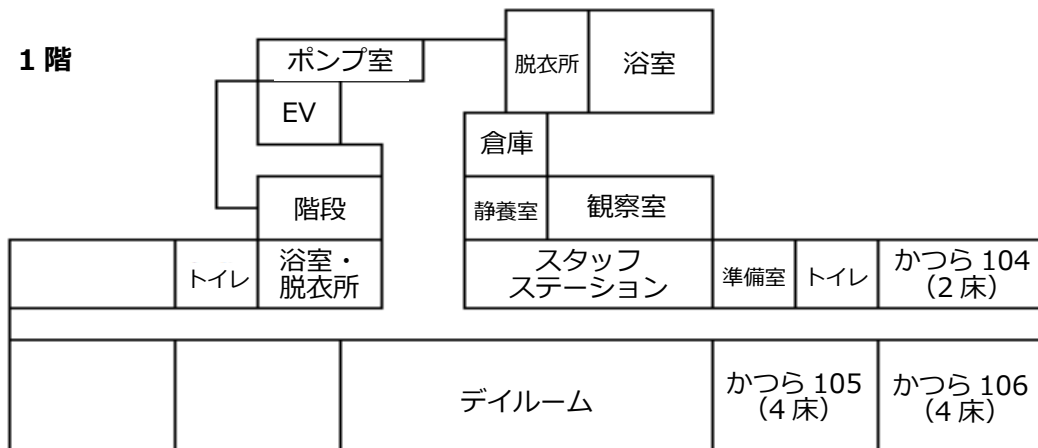
3 階



2 階

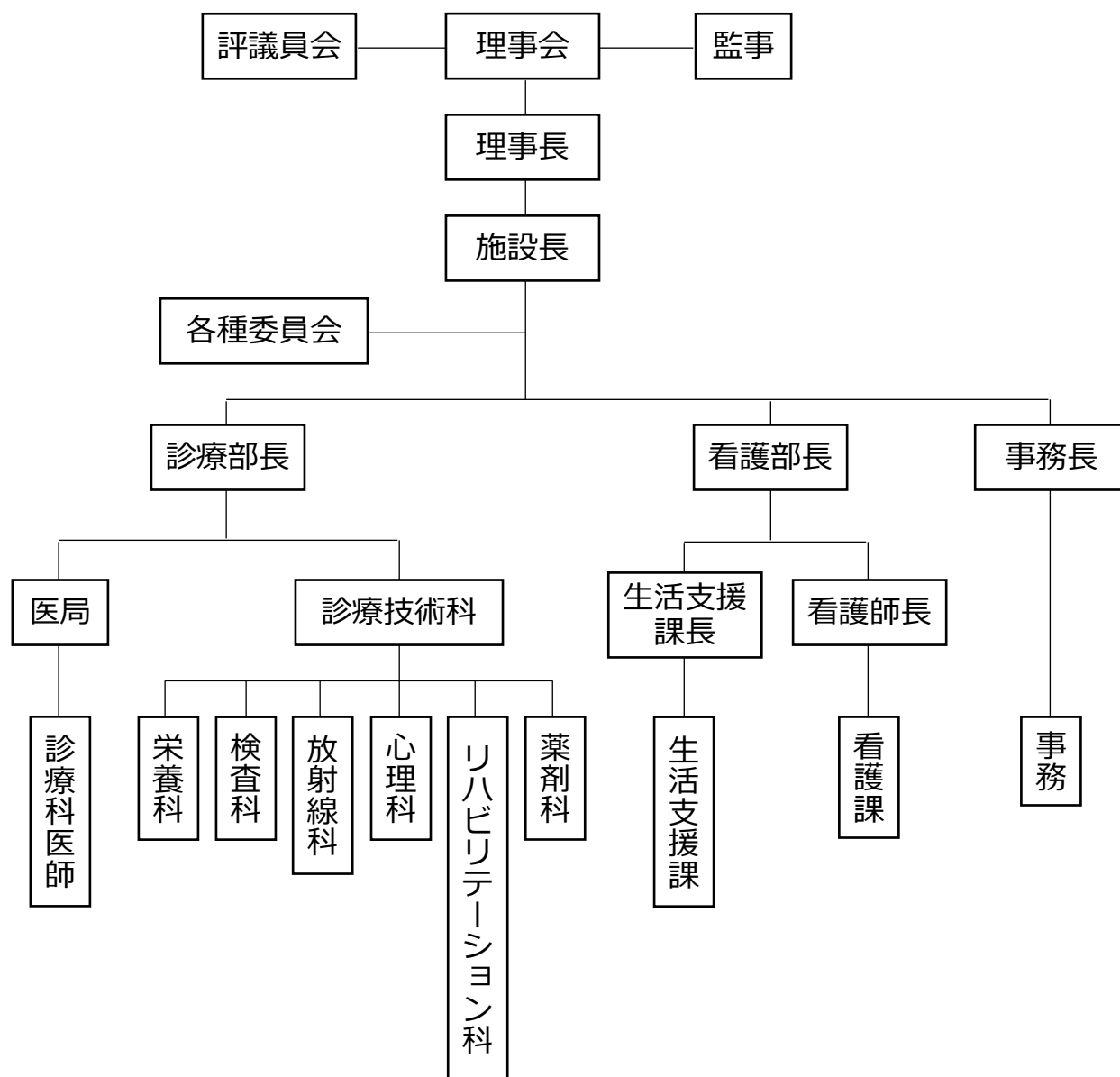


1 階



IV 組織図

2025 年 4 月 1 日現在



V 人 事

職員構成 (人数；2025 年 4 月 1 日現在)

職種	常勤	非常勤	兼務	委託
医師	1	19		
薬剤師	1			
看護師	13	13		
准看護師		2		
看護補助者	1	2		
生活支援員 (介護福祉士)	16			
(保育士)	5			
(その他)	5	1		
管理栄養士	1			
臨床心理士	1			
事務員 (事務長)	1			
(事務員)	3			
作業療法士	1			
理学療法士	1			
臨床検査技師			1	
放射線技師			1	
運転員・用務員		6		
栄養士				1
調理師				3
清掃員				3
計	50	43	2	7

勤務体制

勤務形態	勤務時間	医師	看護要員	生活支援員	薬剤師	臨床心理士	事務員	管理栄養士	作業療法士	理学療法士	調理師(委託)	運転手(非常勤)	清掃員(委託)
早出	4:30～13:30										○		
	7:30～8:30	○											
	7:30～16:30			○					○				
日勤	8:30～17:30	○	○	○	○	○	○	○		○			
	9:00～18:00										○		
	8:30～16:30		○										○
	9:00～16:00		○	○									
	8:30～12:30		○										
	8:30～13:30		○										
遅出	11:00～20:00			○							○		
	16:00～20:00										○		
	17:00～19:00			○									
	17:30～19:00	○											
夜勤	16:30～8:45		○	○									
シフト	6:45～20:50											○	
当直医	19:00～7:30	○											

VI 運 営

1 診療体制

施設長（医師） 村上 研一

1) 医師の体制：

診療体制としては、ここ数年は常勤医 1 名と聖マリアンナ医科大学の小児科を主体とした非常勤医 1 名が日中の診療に携わる形で維持されているが、管理職も兼務している常勤医が外部の会議等に出席することなどから、利用者の救急搬送が必要となった場合に施設内に医師を常駐させることが困難な状況が危惧される。

一昨年からのベッド増床や今後の短期入所者の利用増加に伴い、今後は常勤医 2 名と非常勤医 1 名での診療体制の確立が望ましいものの、人件費と施設運営の観点から現時点では医師の増員は難しいところである。

2) 入所者の診療体制：

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザのみならず、施設内での蔓延が危惧される感染症に対しては検査キットのみに頼ることなく、職員の感染予防対策の徹底を啓蒙することで、従来のようなクラスターが発生することはなくなった。しかしながら短期入所や家族との外出・外泊などに伴う施設外部からの感染症の持ち込みにはこれまで以上に注意と早期の対応が求められている。

また、ここ数年は長期入所者の体調不良による他院への受診・転院などが相次いでおり、これによる施設収益の減収が増えていることも難しい課題である。

県内の重心施設での一般的な対応も加味して、今後は緊急を要さない他院への定期受診については家族による介護タクシーなどの送迎対応をお願いする予定である。

3) 入所受け入れ体制：

周辺の重心施設における年齢制限の壁などの理由から、これまで当施設を利用していなかった利用者の短期入所利用希望が急増している。これに伴い県内のみならず他県からの新規利用希望なども重なり、初回面談待ちや初回利用待ちの利用者は 10 名以上にのぼるが、看護師を中心とした人手不足により看護基準を上回る受け入れが不可能であることから、新規利用者の受け入れは 1 年近い待機期間が生じている状況である。

4) 外来体制：

開設当初からの「地域住民への医療資源の還元」という目標の元、外来診療を開設することは行政の指導も含めて求められているものの、感染対策上の観点や医師・看護師を増員できない背景もあり、あくまで重心（小児科）に特化した予約制の外来診療を設定するのみにとどまっている。

5) 他職種との連携：

おい歯科による訪問歯科診療とミールラウンドによる摂食嚥下機能の評価は誤嚥性肺炎に代表される利用者の疾病予防に大きく寄与しており、院内 NST での食事内容の見直しなどを行うことで利用者の栄養管理の質は徐々に高まっている。またミールラウンド時に摂食嚥下専門医による食事介助の技術指導を行ってもらうことにより、職員のスキルアップにも大きく寄与している。

2 看護・療育体制

看護部長 平川 千鶴子

重症心身障害児者が医療的ケアを受けながら、安心して暮らしていくことができる環境を目指している。

1) 看護部の体制

看護部は看護課・生活支援課があり、看護師、生活支援員、保育士、看護補助者の職種で構成されている。勤務体制は2交代制で日勤、夜勤、早出、遅出がある。日勤の人数は看護師4～6名、看護補助者は1名、生活支援員・保育士1～3名、早出勤務の生活支援員は4～5名、遅出勤務の生活支援員は3～4名、夜勤は看護師・生活支援員併せて5名体制で行っている。

各課、チームケア・個別ケアを実施している。看護・支援計画に添って個々に合わせた看護・療育を実施している。

2) 看護課の役割

看護師の主な役割は、健康の維持増進のための医療的ケアの実施。健やかな生活を送るために、呼吸・食事・与薬・排泄・睡眠・清潔・体位、バイタルサインの観察、自力でできない腹臥位の励行・ポジショニング（排痰）・吸入・分泌物の吸引など異常の早期発見に努めている。また、生活支援員と共に日常生活援助を行っている。

3) 生活支援課の役割

生活支援員の主な役割は、療育活動や生活支援援助である。食事介助や移乗、衣服の着脱、入浴、排泄等の生活における、すべての援助をおこなっている。また、日々の日中活動、各種行事の企画・準備・運営を担い、少しでも施設内での生活が豊かになるようにサポートしている。個別支援計画の作成に基づいたケアの実施支援の評価をおこなっている。

4) 看護補助者の役割

看護補助者はチームの一員として主に病棟療養環境整備業務を中心に行っている。居室環境やスタッフステーション、処置室の整理と清掃、衛生材料やリネンの請求・収納、カルテの整理、帳票補充を行い、看護師・支援員業務のサポートをしている。

業務・統計編

I 業務実績

1 入・退所者の動向

生活支援課 正保 美穂

1) 入所（2026.3.31 現在）

(1) 入退所者数

		2025 年									2026 年			合計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
18 歳未満	入所													0
	退所													0
18 歳以上	入所	1	1									1		3
	退所	1									1			2

上記の表には、他院へ入院のため一時的に転院した方の転院・再入院を含む。

(2) 入所者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
18 歳未満	1	1	1	1	1	1	1	1				
18 歳以上	41	41	41	41	41	41	41	41	42	42	42	42
合計	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42

(3) 入所者の男女比

	男	女	合計
人数	28 名	14 名	42 名
比率	66.7%	33.3%	100%

(4) 入所者の年齢

最高年齢	58 歳 1 か月
最低年齢	18 歳 4 か月
平均年齢	35 歳 8 か月

2) 短期入所

(1) 利用実績

				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期	相模原市	18歳未満	人数	0	1	1	0	2	2	0	2	0	1	0	0	9
			延べ日数	0	5	2	0	9	6	0	7	0	5	0	0	34
		18歳以上	人数	8	8	7	8	5	9	10	7	9	5	3	1	80
			延べ日数	60	54	40	60	40	56	71	33	60	38	31	2	545
		合計	人数	8	9	8	8	7	11	10	9	9	6	3	1	89
			延べ日数	60	59	42	60	49	62	71	40	60	43	31	2	579
	市外	18歳未満	人数	2	1	1	1	3	3	2	1	1	1	1	0	17
			延べ日数	14	8	6	4	20	24	5	4	8	8	5	0	106
		18歳以上	人数	8	5	5	6	3	5	5	8	4	6	6	1	62
			延べ日数	38	28	44	36	19	29	31	42	18	28	28	5	346
		合計	人数	10	6	6	7	6	8	7	9	5	7	7	1	79
			延べ日数	52	36	50	40	39	53	36	46	26	36	33	5	452
	合計	18歳未満	人数	2	2	2	1	5	5	2	3	1	2	1	0	26
			延べ日数	14	13	8	4	29	30	5	11	8	13	5	0	140
		18歳以上	人数	16	13	12	14	8	14	15	15	13	11	9	2	142
			延べ日数	98	82	84	96	59	85	102	75	78	66	59	7	891
		合計	人数	18	15	14	15	13	19	17	18	14	13	10	2	168
			延べ日数	112	95	92	100	88	115	107	86	86	79	64	7	1031

(2) 相談件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所	相談	2	5	4	5	2	1	0	4	1	4	0	1	29
	見学	1	1	3	2	3	0	1	1	2	2	2	0	18
	面談	3	0	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	21

短期入所の相談項目において、短期利用希望の相談件数は29件であるが、この件数は短期入所希望者によるご家族や事業所、行政からの初回相談のみの件数である。初回相談より数回に渡り継続相談になっているケースもある。その内容としては、身体障害者手帳はあるが療育手帳の無い方の相談、家族の入院などで緊急入所希望の相談が何件あった。短期入所までの手順を踏んでいただく為の相談確認は、行政や外部事業所との手続きなどで時間を要することが多くあり、初回入所までに長くかかってしまうことが多々あった。しかし、3件の緊急対応を受け入れることができた。それ以外の相談としては、長期入所先を探している中での短期入所を利用しながら待機する方法や長期入所の申請の仕方をお伝えする等の対応になる場合もあり、ケースにより短期入所希望に至らなかったケースは件数に入れていない。

今年度の相談者は伊勢原市も増えており、前年度からの利用者からの口コミや、同じ事業所から提案された希望者が増えてきている。また、5年以上前に手続きを終えた後ほとんど利用していなかったがご家族の将来的な不安が理由で再度利用希望があるケースも出てきた。

11月～1月にかけての相談においては、『北里大学病院あすばら』の短期入所が18歳になる年度を超すと使えなくなる理由で希望する相談が多く、大抵呼吸器使用等医療度が高い対象者が多い。一方で、手足が良く動いて自力移動が可能な方の相談も増えている。相談者が見学を終えてからの診療情報提供書等の提出書類が届くまでに時間がかかり、事前面談に進めていない方もいるが、特に1月以降に関しては職員不足による施設都合において、短期入所受け入れ事業が停滞している為、事前面談の実施が希望人数に追いつけない事情で進み具合が停滞している。

短期利用相談者の所在地は、相模原市内 9 件、神奈川県内では伊勢原市 3 件、厚木市 2 件、座間市 1 件、川崎市 1 件、横浜市旭区 1 件、愛川町 1 件、東京都内では八王子市 2 件、町田市 2 件、日野市 1 件である。その他事業所や行政からの相談では、在住先を言わないケースもあった。

3) 主病名（主要病因分類別）

単位：人 2026.3.31.現在

時期	原因	診断内容	入所		短期入所*1	
			I*2	II*3	I	II
出生前	感染・中毒 (I-A)	1 先天性風疹				
		2 先天性梅毒				
		3 先天性トキソプラズマ症				
		4 その他感染・中毒				
	代謝障害 (I-B)	1 糖質代謝障害				
		2 アミノ酸代謝障害				
		3 脂質代謝障害				
		4 プリン代謝障害				
		5 その他代謝障害	2			
	母体疾患 (I-C)	1 妊娠中毒症				
		2 その他の母体の疾患によるもの				
	不明の要因 (I-D)	1 原発性小頭症又は狭頭症	1			
		2 水頭症	1		1	
		3 神経皮膚症候群	2			
		4 変性疾患	1			
	染色体異常 (I-E)	1 ダウン症候群			1	
		2 その他の染色体異常	1		5	
	特殊型・その他 (I-F)	1 特殊型（その他）	2		2	
		(内訳)全前脳胞症			(1)	
		ヌーナン症候群				
		滑脳症	(1)			
		パリスターキリアン症候群				
		ピエールロバン症候群			(1)	
		孔脳症				
		脳梁欠損・異所性灰白質	(1)			
		コルネリアアデラング症候群				
		2 その他不明のもの			5	1
	小計		10	0	14	1
出生時・ 新生児期	分娩異常 (II-A)	1 機械的損傷による脳障害	1			
		2 低酸素症または仮死	7		4	
		3 その他の分娩異常によるもの				
	新生児期の 異常 (II-B)	1 低出生体重児 AFD 又は LFD	7		1	
		2 低出生体重児 SFD	3		3	2
		3 高ビリルビン血症				
		4 感染症に起因する脳損傷				
		5 新生児痙攣				
		6 その他新生児期の異常				
	その他 (II-C)	1 血管障害、頭蓋内出血を含む			1	
		2 その他不明のもの				
	小計		18	0	9	2
周産期以降	外因性障害 (III-A)	1 髄膜炎・脳炎	1		3	
		2 脳外傷	5			
		3 中毒性脳症				
		4 予防接種による脳炎・脳症				
		5 その他の外因によるもの	1		4	
	症候性障害 (III-B)	1 血管障害				
		2 てんかん	3		7	
		3 頭蓋内腫瘍				
		4 脳症	1			
		5 精神障害による発達障害				
		6 その他の症候性障害	2		1	
	その他 (III-C)	1 環境因子による発達遅滞				
		2 1以外のもの				
		3 その他不明のもの	1			
	小計		14	0	15	0
総計			42	0	38	3

*1 は 2025 年度に短期利用した実人数

*2 は重度知的障害（I Q ≤ 35 相当）かつ重度肢体不自由（身障 1～2 級相当）

*3 は重度知的障害あり、肢体不自由は I より軽いもの

4) 入所者の障害度分類（2025 年 4 月 1 日現在）

施設長 村上研一

(1) 大島分類

(計 42 名) IQ

21	22	23	24	25	80	上段：分類
0	0	0	0	0		下段：人数
20	13	14	15	16	70	
0	0	0	0	0		
19	12	7	8	9	50	
0	0	0	2	0		
18	11	6	3	4	35	
0	0	0	3	4		
17	10	5	2	1	20	
0	0	0	4	29		
走れる	歩ける	歩行障害	座れる	寝たきり	0	

(2) 超重症児者、準超重症児者数

重症児スコア	人数（人） n=42		比率	2024 年 4 月 1 日（n=38）		
超重症児者 （25 以上）	1 8 歳未満	0	0%	1 8 歳未満	0	0%
	1 8 歳以上	0		1 8 歳以上	0	
準超重症児者 （10～24）	1 8 歳未満	1	30.9%	1 8 歳未満	1	26.3%
	1 8 歳以上	12		1 8 歳以上	9	

(3) 障害支援区分

※学童（1 名）を除く

区分	男	女	計	2024 年 4 月 1 日
5	0 人	1 人	1 人	1 人
6	28 人	13 人	41 人	36 人

(4) 医療的ケアの有無

医療的ケア	年齢	人数（人）	割合	2024 年 4 月 1 日	
有	1 8 歳未満	1	50.0%	1 人	52.6%
	1 8 歳以上	20		19 人	
無	1 8 歳未満	0	50.0%	0 人	47.4%
	1 8 歳以上	21		18 人	
計		42	100%	38 人	100%

2 教育研修の実績

看護部長 平川 千鶴子
看護師長 本多 薫

1) 施設内教育研修実績

(1) 教育研修

月	日	テーマ	講師	参加者
5月	23	土砂災害対策研修・訓練（BCP 対策）	事務副主任 管理栄養士	50
	28	感染防止対策研修（手洗いの実際）＊	看護師長	53
6月	4	衛生委員会研修 メンタルタフネス度を高める	薬剤科長	53
	23	身体拘束研修 ＊	生活支援員	54
	25	医療機器安全研修	外部（商起産業）	43
7月	29	障害者差別・虐待防止研修	生活支援員	48
	31	医療安全研修（スライドボードの使用法）＊	看護師長	46
8月	12	虐待防止研修 ＊	生活支援員	47
10月	20	意思支援決定研修	生活支援課長	51
	24	接遇研修（トピックス）	施設長	53
11月	6	感染防止対策研修（BCP 対策研修・訓練）＊	看護師長	58
12月	19	児童福祉法研修	生活支援員	46
2月	25	BCP 訓練（災害編） ＊	事務長	68
	27	医療安全研修 ＊	看護師長	43
3月	6	医薬品安全研修 ＊	薬剤科長	47
	13	BCP 対策研修 ＊	事務長	43
	25	意思決定支援研修	生活支援員	35

合計 17 回 ＊は法定研修 参加者はビデオ視聴者含む

(2) 勉強会

月	日	テーマ	担当
5月	20	ACP について	看護師
6月	17	注入食について	看護師
7月	22	医療廃棄について（書面クイズ方式）	看護師長
9月	16	カフアシストについて	医師・看護師
10月	21	伝達講習（全国重心施設職員研修 NS コース）	看護師

2) 施設外教育研修実績

(1) 公費参加

事務部主任 馬上 歩

研修日	参加者	研修テーマ
5/22-23	医師 1、事務 1	日本重症心身障害福祉協議会 全国施設協議会
6/12-13	支援 1	児童発達支援管理責任者 更新研修
6/22	支援 1	スヌーズレンセミナー
7/3	看護 1	研修会「人を育て 自らも育つ臨床の魅力」
7/31	支援 1	サービス管理責任者・児童発達支援管理者 基礎研修
8/29	薬剤 1	大和地区研修会
9/8-11/27	看護 1	小児訪問看護・重症心身障害児看護研修会（11 日間）
9/11-12	看護 1	全国重症心身障害児者施設職員研修会 看護師コース
9/19-20	リハ 1	日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
9/20	支援 2、看護 2	実践報告会「茅ヶ崎支援学校の取り組み」
9/30,10/30	支援 1	神奈川らくらく介護研修
10/2-3	看護 1	重症心身障害療育学会学術集会 看護管理研究コース
10/8,15	看護 1	看護補助者のための基礎力養成講座
10/10	リハ 1	国際福祉機器展
10/16-17	栄養 1	全国重症心身障害者施設職員研修会
10/23	薬剤 1	湘南地区研修会
10/29-31	看護 1	全国心身障害児者施設職員研修会看護管理研究コース
11/7	支援 1	神奈川県障害者虐待防止・権利擁護研修 マネージャーコース
11/11	事務 1	福利協会事務研修会
11/12	看護 2	重症心身障害児者 支援者向け研修会
11/21	事務 1	年金委員表彰状伝達式および研修会
12/3	支援 1	重症心身障害児者関係施設協議会交流研修会
12/4-5	リハ 1	全国重症心身障害者施設職員研修会 医療技術管理コース
12/6	看護 1	研修「重症心身障害児者特有の呼吸ケア・人工呼吸管理」
12/9	薬剤 1	県西地区研修会
12/15	薬剤 1	相模原地区地域薬剤師連絡会
12/19	薬剤 1	相模原地区研修会
1/7	薬剤 1	療養病床対象研修会
1/22	薬剤 1	第 2 回横浜・川崎地区研修会
2/10	支援 1	意思決定支援ガイドライン研修 生活支援員編
2/12	支援 1	神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会 職員研修
2/13	薬剤 1	相模原地区・相模原市薬剤師会 合同研修会
2/17	薬剤 1	精神科領域研修会
3/9	薬剤 1	TDM 研修会
3/13	薬剤 1	第 2 回 NST 研修会
3/20	看護 1	強度行動障害、予防的支援研修

(2) 施設外講師派遣実績

なし

(3) 資格取得実績

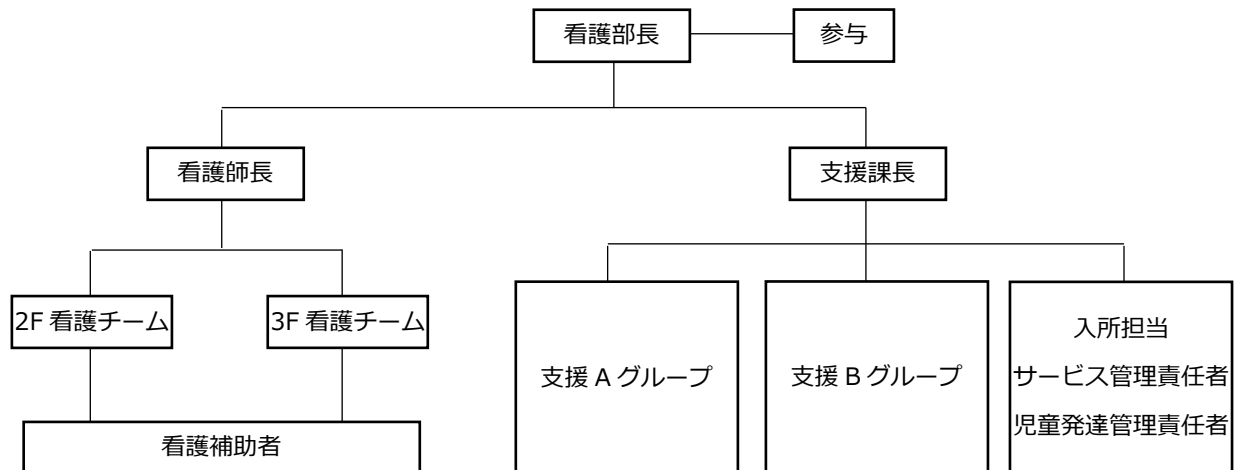
職種	人数	資格
生活支援員	1	サービス管理責任者
生活支援員	1	強度行動障害支援実践研修

3 看護業務の実績

看護部長 平川 千鶴子

1) 看護部体制

(1) 看護部組織図



(2) 許可病床数と看護・介護職員配置

許可病床数 50 床 看護単位 1 看護単位
看護・介護配置人数 看護 13 対 1 (介護職 3 対 1)

(3) 看護方式 モジュール型看護方式

(固定チームナーシングとプライマリーナーシングの折衷型)

(4) 支援体制 チーム制と担当制

(5) 勤務形態 二交代+変則勤務

(6) 勤務時間 (子育てやプライベートに配慮して細やかな勤務時間を導入している)

勤務の種類	看護課	支援課
早出	7:30~16:30	7:30~16:30
日勤	8:30~17:30	8:30~17:30
A1	9:00~16:00	9:00~16:00
A2	8:30~12:30	
A3	9:00~14:00	
A5	8:30~16:30	
A6	8:30~13:30	
遅出		11:00~20:00
才 4		11:00~19:00
夜勤	16:30~8:45	16:30~8:45

(7) 職員状況

看護職員 27 名 (休職 1 名含む)、看護補助者 3 名、生活支援員 29 名 (休職 1 名含む) * 2026 年 3 月 31 日現在

2025 年度の入職者: 看護師 9 名、生活支援員 5 名、看護補助者 2 名

2025 年度の退職者: 看護師 10 名、生活支援員 3 名

2) 看護部の活動

(1) 看護部目標

- ①利用者の健康維持・回復に繋がる医療ケア・看護の実践を行います
利用者が快適に楽しく過ごせるケア・活動・介護の実践を行います
 - ・ご家族・利用者の立場に立った心のこもった言動・ケアを実践します
 - ・職員同士が連絡相談協力し、利用者へのタイムリーなケアを行います
 - ・すべてのケアにおいて安全性を考慮します
 - ・基本に立ち返り、安全性を考慮した生活介助を実施します
 - ・整理整頓に努めます
 - ・感染防止対策を理解し実践します
- ②笑顔があふれ安心できる職場風土を自ら率先して作ります
 - ・認め合い、助け合い、励まし合える声掛けを行います
 - ・挨拶の励行、笑顔での対応、感謝の気持ちを伝えます
 - ・確認の声掛けや相手の同意を得た対応を行います
 - ・相談・協力ができる関係性を築きます
 - ・業務改善・働き方の改善に努め、安全性の担保を図ります

(2) 目標達成状況と評価

目標の評価は年2回、職員にアンケートを配布し、達成状況を評価した。

7月に発生した職員による虐待行為に対し、9～10月に臨時で不適切ケアに対するアンケート実施と職員面談を実施した。

看護部目標評価は「出来た」「出来ない」を5～0の6段階にして、点数を%で表した。中間評価の結果は70%の達成率が年度末評価では55%にとどまった。

適切なケアの実施、看護・支援課の協力体制が不十分であったと考える。看護・支援がお互いを尊重し協力体制が構築できるような組織改革が必要であるとする。また個々の知識・技術のレベルアップを図れるような教育・指導も行う必要がある。

(3) 人材育成

外部研修の参加や、重症心身障害児者施設協議会主催の学会参加や施設内法廷研修の実施。加えて新入職員に対してオリエンテーションを行い、複数の人員でOJT(on the job training)を基本に職場に適応できるように援助、支援を行った。施設内研修は時間内に行われ業務調整を行いながら多くの職員が参加できるよう配慮した。来年度はオンライン研修の導入を検討中。

(4) 研修・実習生の受入

- ①相模原看護専門学校
- ②津久井高校「福祉課」
- ③聖マリアンナ医科大学「早期体験実習」
- ④看護協会看護体験受け入れ

学生実習を受け入れることで施設内が活性化されと感じている。来年度も多くの学生の学びの提供の場となるよう職員と協力していく。

(5) ケアの実際

①清潔ケア

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
機械浴	227	340	244	0	0	0	336	268	371	330	292	232	2640	1889
シャワー	132	221	308	607	525	586	262	274	207	230	205	309	3866	3482
清拭	7	14	10	0	52	3	3	6	1	1	35	8	140	145

*7～9月の夏季は熱中症予防のためシャワー浴とした。

②医療的ケア実施延べ数（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
吸引	449	457	423	475	481	459	449	429	449	424	372	443	5310	5112
呼吸器	7	6	0	3	13	15	4	3	4	4	0	0	59	21
経鼻栄養	74	62	62	65	89	60	64	82	96	69	77	93	893	1162
胃腸瘻	468	487	456	479	493	481	513	482	503	493	442	466	5763	5112
点滴	17	33	9	0	16	4	12	4	0	10	2	10	117	101
歯科受診	162	177	195	152	162	193	179	166	163	165	176	166	2056	1759
褥瘡	30	31	30	32	62	63	51	30	48	62	56	77	572	377
他科受診	3	3	8	7	7	3	3	6	4	6	0	8	58	64

長期利用者の人工呼吸器使用者は不在であるが、呼吸器使用の短期入所の受け入れを実施している。利用者の高齢化に伴い、医療的ケアの今後の増加はやむを得ないを考える。特に摂食機能低下に伴い、経口摂取が難しくなるケースが考えられる。

家族・本人の意向を確認したうえで訪問歯科医と相談して方針を決定していかなければならない。また、当院では治療や検査が困難なケースが増え、他科受診の件数増加も考えられる。受診時の対応も含め、地域の医療施設と連携しながら利用者の健康維持に努めたい。

③面会・外出・外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
外出	7	11	6	6	3	3	10	6	4	8	3	5	72	41
外泊	1	1	1	1	0	0	2	1	5	5	1	0	18	7
面会	34	55	46	52	44	62	42	51	57	54	45	56	598	473

面会・外出・外泊は土日祝日の緩和を行い、年末年始には数名の利用者が外泊・外出、もしくは面会にて、家族と共に過ごすことができた。面会に関しては今後も緩和し、家族との時間をより多く共有できるように配慮していきたい。

(6) 療育

① 日中活動実績

・年度を通しての総括

各曜日で行っているグループでの日中活動では、季節にちなんだ内容やゲーム等を行った。
外気浴で外に出た時や、夏の暑い日等は、水道からの水トンネルを潜り抜ける等水を取り入れる事によって涼みながら楽しめていた。

【 月曜日グループ 】

人数：男女 14 名 実施曜日：月曜日

実施月	活動内容	計
4 月	誕生日会・ボール遊び、風船バレーボール、宝探しゲーム、輪投げリレー	4 回
5 月	母の日カード製作、ビーチボール遊び、宝探しゲーム、的当てゲーム	4 回
6 月	虹の製作、誕生日会・父の日カード製作、絵本読み・外気浴、クジ引きボウリング、ボウリング	5 回
7 月	七夕飾り付け、ゴルフ、ボッチャ、納涼祭の展示物製作(貼り絵)	4 回
8 月	ボール遊び、野球ボウリング	2 回
9 月	納涼祭飾り(かき氷)製作、外気浴(シャボン玉を飛ばす)2 回、納涼祭飾り(花)製作	2 回
10 月	食育「パンプキンケーキ」、カップインボール転がし、誕生日会・紙芝居、外気浴	4 回
11 月	ボールパチンコ、食育「スイートポテト」、外気浴・絵本読み聞かせ、テーブル玉入れ	4 回
12 月	外気浴 2 回、食育「クリスマスケーキ」、スヌーズレン、誕生日会・歌・シフォンパルーン	5 回
1 月	書初め、成人式の飾り製作、ビンゴゲーム、ボール回し	4 回
2 月	ふれあい体操、食育「チョコレートケーキ」、スヌーズレン、誕生日会・外気浴	4 回
3 月	ひなまつりの歌と記念撮影、ボウリング、絵具で色塗り、スヌーズレン・外気浴、ボール入れ競争	5 回

【 水曜日グループ 】

人数：男女 12 名 実施曜日：水曜日

実施月	活動内容	計
4 月	羽子板ボウリング、ビーチボールバレー、パターボウリング	3 回
5 月	母の日カード製作、誕生日会・ボール渡しリレー、外気浴(シャワーミストで水遊び)	3 回
6 月	テーブルピンポンボウリング、絵本読み聞かせ、父の日カード製作、七夕の飾り作り・歌	4 回
7 月	短冊に願い事を書く・歌、ボッチャ、納涼祭展示物製作(貼り絵)	3 回
8 月	納涼祭飾り(チョコバナナ)製作・歌、食育「フラッペ」、納涼祭飾り(提灯)製作	3 回
9 月	納涼祭飾り(かき氷)製作、ボール渡しゲーム、納涼祭飾り製作(塗り絵)、外気浴	4 回
10 月	食育「マロンケーキ」、チーム対抗リレー、ハロウィンで菓子を貰いに行く	3 回
11 月	ボール投げ、クリスマスの絵本読み聞かせ・クリスマスの飾り製作、クリスマスツリーの壁面製作	3 回
12 月	花いちもんめ、食育「クリスマスケーキ」、ボール遊び、クリスマスの歌・ボール投げ、ふれあい体操・外気浴	5 回
1 月	誕生会・書初め、風船遊び、スヌーズレン・ふれあい体操、歌・絵本読み聞かせ	4 回
2 月	食育「チョコレートケーキ」、ボウリング、ゴルフ	3 回
3 月	ひなまつりの歌と記念撮影、誕生日会、食育「イチゴ」、桜の木製作	4 回

【 木曜日グループ 】

人数：男女 16 名 実施曜日：木曜日

実施月	活動内容	計
4 月	ボール回しゲーム、ビーチボールバレー、玉入れゲーム、食育「ホットケーキ」	4 回
5 月	母の日カード製作、外気浴、絵本読み聞かせ、てるてる坊主作り	4 回
6 月	ボウリング、父の日カード製作、ボール遊び、くじ引きボウリング	4 回
7 月	短冊に願い事を書く、誕生日会・風船飛ばし、納涼祭の展示物製作(貼り絵)	3 回
8 月	歌・ボール投げ、納涼祭飾り(提灯)製作 2 回、食育「フラッペ」	4 回
9 月	風船遊び、外気浴(シャボン玉を飛ばす、シャワーミストで水遊び)、納涼祭飾り製作(塗り絵)、カップインボール転がし	4 回
10 月	ハロウィンの飾り製作、ボール投げ、ボウリング、ハロウィンで菓子を貰いに行く	4 回
11 月	食育「スイートポテト」、クリスマスの飾り製作、ボール的当てゲーム	3 回
12 月	ポッチャ、食育「クリスマスケーキ」、折り紙でサンタ作り、誕生日会・クリスマスの歌・シフォンバルーン	4 回
1 月	書初め、成人式の飾り製作、ボウリング、ボール的当てゲーム ※元旦はグループ活動ではなく正月行事に全員参加となる	4 回
2 月	玉入れ 2 回、ボウリング、ボール回しとサイコロゲーム	4 回
3 月	ひなまつりの歌と記念撮影、食育「イチゴ」、絵具で色塗り、桜の木飾り付け	4 回

【 日曜日 】

人数：お楽しみ会は全利用者対象・1 階 2 階利用者対象・3 階利用者対象の日がある

実施曜日：日曜日

実施月	活動内容	計
4 月	お楽しみ会 1 階 2 階「カラオケ大会」、お楽しみおやつ	2 回
5 月	お楽しみ会 3 階「マジック・踊り(ボランティア)」、お楽しみおやつ	2 回
6 月	お楽しみ会 1 階 2 階「カラオケ大会」、お楽しみおやつ	2 回
7 月	お楽しみ会 3 階「水鉄砲で射的」、お楽しみおやつ	2 回
8 月	お楽しみ会 1 階 2 階「水鉄砲で射的」、お楽しみおやつ	2 回
9 月	納涼祭(屋台にてかき氷・綿菓子・チョコバナナ提供、「三味線・太鼓・民謡(ボランティア)」「バルーンアート(ボランティア)」「フラダンス(ボランティア)」「歌と演奏(ボランティア)」、花火)	1 回
10 月	お楽しみ会「ハロウィンを楽しもう」、お楽しみおやつ	2 回
11 月	お楽しみおやつ	1 回
12 月	お楽しみ会 3 階「カーリングゲーム」、お楽しみおやつ	2 回
1 月	お楽しみ会「N さんの成人式」、お楽しみおやつ	2 回
2 月	お楽しみ会 1 階 2 階「カーリングゲーム」、お楽しみおやつ	2 回
3 月	お楽しみ会 3 階「野球(長竹ベースボールクラシック)」、お楽しみおやつ、外気浴	3 回

【 誕生日会 】

人数：全利用者対象 実施曜日：各利用者の誕生日

実施月	活動内容	計
利用者の誕生日当日に実施	利用者と職員で祝う	42 回

【グループ活動及び日曜日以外の個別活動等】

実施月	活動内容	計
7月	誕生日会、七夕の歌を聴きながら短冊飾り・笹の前で写真撮影(同日 AM1 階)/歌・七夕の話・短冊飾り・笹の前で写真撮影(同日 AM2 階)、七夕の絵本読み聞かせ・短冊飾り・笹の前で写真撮影(3 階)、お囃子・獅子舞(稲生自治会行事)	5 回
8月	誕生日会 2 回	2 回
10月	誕生日会 2 回、絵本読み(同日 AM1 階 2 階)/ハロウィンの飾り製作(同日 AM3 階)	5 回
11月	誕生日会、絵本読み(同日 AM1 階)/紙芝居(同日 AM2 階)/輪投げ(同日 AM3 階)	4 回
1月	初詣(同日 AM1 階 PM2 階)、初詣(3 階)	3 回
2月	誕生日会、テイクアウトランチ(3 名)	2 回

【個別外出】

・年度を通しての総括

個別外出では、利用者個々の興味がある場所を起案して実施しており、近場から慣らして回数を重ねるごとに距離を伸ばして、江ノ島水族館まで 1 日の計画で出かけた利用者もいる。普段は注入での食事の利用者も外でソフトクリームの味覚を楽しむと舌の動きが止まらずに楽しめていた。皆気分転換になっていたようだ。

実施月	外出内容	計
4月	相模湖町ファミリーマート 1 名、上大島キャンプ場 1 名、相模原北公園 2 名、又野運動公園・ファミリーマート 1 名、アリオ橋本店 2 名	7 名
5月	城山公園「森のコンサート」1 名、アリオ橋本店 2 名	3 名
6月	麻溝公園ふれあい動物園 1 名、アリオ橋本店 2 名	3 名
7月	服部牧場 1 名、ふれあい科学館 2 名、アリオ橋本店 1 名	4 名
8月	オギノパンカフェ 1 名	1 名
10月	アリオ橋本店 1 名、新江ノ島水族館 2 名、イーアス高尾 2 名	5 名
11月	服部牧場 2 名、相模湖公園 1 名、アリオ橋本店 2 名、相模原市立博物館 1 名、花の苑地 1 名	7 名
12月	アリオ橋本店 5 名、久美堂愛川店 1 名	6 名
1月	相模湖公園 3 名	3 名
3月	コピオ相模原インター店 2 名、アリオ橋本店 1 名、相模原けやき会館「楽しく音楽リズム」1 名	4 名

② 外出活動：ドライブ倶楽部の活動状況

・年度を通しての総括

2025 年度は、経口摂取が可能な利用者は飲食物を購入してくる計画をドライブの中に入れた。車中だけのドライブだけではなく、スーパーやコンビニの中に入るといふ社会経験に加え、意思表示がわずかな利用者でも目線や表情等より購入したい物を選ぶという意思決定の場にもなった。施設に帰院後、飲水時間に飲食するという楽しみも持てた。

今までと同様にドライブへ行く順番が回って来るのを楽しみにしている様子や、帰院後に満足した表情や話が出る事がある。ドライブの予定日に体調不良などで行けない利用者は、別日の予定者と行く日を代え、極力ドライブに行けるように対応している。

3 月の宮ヶ瀬ダムでは、その周辺にある『たっこ家』という店でたこ焼きを購入する予定が組まれていたが、店が開いておらず購入出来なかった。ネット情報では、月曜定休日になっていたが、ドライブの金曜日にも 1 度も開いておらず、代わりに自動販売機やコンビニで飲食物を購入し、利用者はそれでも満足した様子があった。

【ドライブ倶楽部】

月	日	行先	参加人数
4 月	4 日	相模湖公園	2 名
	11 日		3 名
	18 日		3 名
	25 日		2 名

月	日	行先	参加人数
5 月	2 日	ダイエー津久井店 津久井湖公園	3 名
	9 日		2 名
	16 日		2 名
	23 日	大島河原	2 名
	30 日	ダイエー津久井店 津久井湖公園	3 名

月	日	行先	参加人数
6月	6日	相模原市立鳥居原ふれあいの館	2名
	13日		2名
	20日		2名
	26日		2名

月	日	行先	参加人数
7月	4日	相模湖公園 コンビニ	2名
	11日		2名
	18日		2名
	24日		2名

月	日	行先	参加人数
8 月	1 日	城山湖本沢ダム	2 名
	8 日	職員不足のため中止	
	15 日	城山湖本沢ダム	2 名
	22 日		2 名
	29 日	予定利用者が体調不良のため中止	

月	日	行先	参加人数
9 月	5 日	台風のため中止	
	12 日	宮ヶ瀬ダム	2 名
	19 日	コンビニ	2 名
	26 日	納涼祭直前のため実施なし	

月	日	行先	参加人数
10 月	3 日	相模湖公園	2 名
	10 日		2 名
	17 日		2 名
	24 日		2 名
	31 日		2 名

月	日	行先	参加人数
11 月	7 日	ダイエー津久井店 津久井湖公園	2 名
	14 日		2 名
	21 日		2 名
	28 日		2 名

月	日	行先	参加人数
12月	5日	相模川自然の村公園	2名
	12日		2名
	19日		2名
	26日		2名

月	日	行先	参加人数
1 月	2 日	正月行事のため実施なし	
	9 日	津久井湖公園 コンビニ	2 名
	16 日		2 名
	23 日		2 名
	30 日		2 名

月	日	行先	参加人数
2月	6日	相模湖公園	2名
	13日		2名
	20日		2名
	27日		2名

月	日	行先	参加人数
3 月	6 日	宮ヶ瀬ダム	2 名
	13 日		2 名
	20 日	祝日のため実施なし	
	27 日	宮ヶ瀬ダム	2 名

③ ボランティア等の活動状況

月	日	活動	活動内容
4月	14日	傾聴ボランティア（入所者2名）	5月の折り紙(こいのぼり)・4月の歌を楽器を使って歌う
			【様子】 居室にて行う。少々緊張した表情だったが、職員も一緒に参加して交われる様に声をかけていると緊張がほぐれてきた表情になる。特にスマホの画面でアニメーションの動画と歌が流れるとじっと見る様子があり、笑みが出ていた。楽器はタンバリンを持つ。ボランティアさんとマンツーマンでやり取りできるのが嬉しい様子だった。
5月	12日	傾聴ボランティア（入所者2名）	6月の折り紙(紫陽花・てるてる坊主等)を画用紙に貼る・スマホの画面を見ながら歌う・絵本読み
			【様子】 ボランティアさんと顔を合わせるとニコリと笑みが出る。歌に合わせて楽しそうにマラカスを振り、時折声を出して笑っていた。絵本は一緒に見て笑顔であり、終始穏やかな表情だった。内容も分かってきており、ボランティアさんとのやりとりもスムーズで楽しめている様子だった。
5月	18日	お楽しみ会ボランティア	タマテバコ：マジックと踊り
			マジックだけの予定だったが、当日踊りも披露したいと希望があり、両方披露して頂く。色のハンカチを使ったり、見て分かりやすい内容だった。当日提供者の希望で囲むように配置を行った。マジックから始まり利用者へ問いかけたり、目を合わせ笑顔を向けながら披露して下さった。また利用者へ職員がわくわくするような声掛けをしたり、マジックを見て、普段笑顔が少ない利用者が笑顔を見せてくれ驚く場面もあった。踊りの場面では、職員が利用者の手を取り身振りを真似たり、一緒に歌ってみたりしながら、終始笑いが多くあり和やかな時間となった。 終了後、提供者より「聞いていたよりも笑ってくれたり、反応してくれた事が嬉しかった。私達も楽しませてもらえた。」等感想があり、利用者への理解を示して下さる感想が多くもらえた。
6月	16日	傾聴ボランティア（入所者2名）	七夕の折り紙を作る・絵本読み『こんとあき』・紙芝居『かぐやひめ』
			【様子】 ボランティアさんの様子をじっと見ている事が多かった。
8月	18日	傾聴ボランティア（入所者2名）	夏の折り紙を画用紙に貼る・夏の歌を鈴を持って演奏
			【様子】 居室で行っていた場所のエアコンが寒くなり途中で移動したようだ。歌に合わせて鈴を鳴らしたり折り紙をする。「楽しかった。」と言っていた。

9月	28日	納涼祭 ボランティア	青森南部会：津軽三味線と民謡
			【様子】 午前正面玄関にて、青森南部会の三味線・太鼓・民謡の披露があった。多くの人が集まり、じっと聴いている様子があった。
			風船番長あっくん：バルーンアート
			【様子】 昨年途中からの雨天に比べて、今年は快晴だった為バルーンアートが行われた。正面玄関前の広場には多くの人がおり、屋台の物を食べながらじっと見ている様子があった。音楽に合わせて次々に作るバルーンアートを見学者にプレゼントしていき、皆喜んでた。風船番長あっくんの妹にあたる利用者は、一番前でじっと見ており妹であることを皆の前で紹介してもらおうと誇らしげな表情に見えた。昨年の様に他者との関わりにやきもちを焼く様子もなかった。
			フラダンス
			午後より1階ダイルームで行われた。あまり見る事が無いせいか、異国の音楽と踊りと衣装等に魅了されるようにじっと見る様子があった。
			ウクレレマイスターズ：支援学校の教員バンド
10月	20日	傾聴ボランティア（入所者2名）	【様子】 午後より1階ダイルームで行われた。毎年来ていただいていた恒例となっている。支援学校で直接お世話になった教員と久しぶりに会えて喜んでいる利用者もいた。生演奏と生歌の迫力を感じてじっと見る様子があった。知っている歌や曲で盛り上がっていた。
			折り紙(お月見の折り紙を画用紙に貼る)・絵本
11月	17日	傾聴ボランティア（入所者2名）	テーブルに着くと背筋を伸ばして背もたれから離れ、顔にも力が入って意欲的な様子。ボランティアさんが声をかけ始めると表情が柔らかくなってリラックスし始めた様子で、時々声を出して笑う事も多かった。十五夜のウサギやススキの張り絵の位置を利用者に相談しながら完成させる。利用者の1人がもう1人に気を配って声をかけていた。職員とボランティアさんとで来月の訪問日の確認をしていると、「何をやるのかな。楽しみだね。」と言って笑っていた。
			折り紙(クリスマス関連)・絵本(『アルカンシエルの大きな木靴』)・紙芝居(『したきりすずめ』『さるかに合戦』)
12月	15日	傾聴ボランティア（入所者2名）	【様子】 ボランティアさんが来院すると、目を大きく見開いて挨拶している様な表情だった。クリスマスリース作りを完成させ、「楽しい。」と言う。紙芝居の面白い内容のタイミングで声を出して笑っていた。
			折り紙(お正月関連)・絵本3冊読み聞かせ・ぬり絵(クリスマス関連)
12月	15日	傾聴ボランティア（入所者2名）	【様子】 正月に向けての折り紙の作品の位置を、利用者に相談しながら台紙に貼っていく。クリスマスの絵にぬり絵をする。笑顔が多く参加していた。終了時には自ら「今年もお世話になりました。また来年もよろしくお願いします。」とボランティアさんに挨拶していた。

1 月	19 日	傾聴ボランティア（入所者 2 名）	節分の折り紙・絵本・2 月の童謡をスマホの画面を見て聴く
			【様子】 ボランティアさんが絵本を読み聞かせている時に笑顔が見られ、真剣に耳を傾けている様子だった。
2 月	16 日	傾聴ボランティア（入所者 2 名）	3 月のおひなさまの折り紙・塗り絵・絵本
			【様子】 折り紙を貼っている作業で笑顔が見られた。
3 月	16 日	傾聴ボランティア（入所者 2 名）	折り紙・絵本・紙芝居『したきりすずめ』・春の歌をスマホの画面を見て聴く
			【様子】 紙芝居の時に笑顔が見られた。

4 薬剤科業務の実績

薬剤科長 宮地 正和

1) 勤務形態

常勤：薬剤師 1 名

2) 業務実績

1 階開床で入所者の増加に伴い、医薬品購入額等が増加した

(1) 処方箋枚数等

外来処方箋	病棟処方箋	外来注射箋	病棟注射箋	持参薬鑑別件数	院内製剤件数
52	1,917	7	197	150	7 (クラスⅢ)

(2) 病棟定数薬管理

年度末の定数・延べ使用実績は以下のとおりであった

	1 階		2 階		3 階	
	病棟	救急カート	病棟	救急カート	病棟	救急カート
定数品目数	10	13	13	13	16	13
延べ使用回数	973	8	1,070	14	3,020	8

(3) 薬剤業務件数

病棟時間 (hr)	ブレイクボイド	処方提案で変更	処方提案で減量	検査の提案
420	0	22	7	84
疑義照会	問い合わせ受け	退院時薬剤指導・薬剤サマリ作成		事前面談
44	84	2		19

(4) 医薬品情報管理室業務

DI ニュース発行 : 定期 7 件、臨時 11 件

(5) 時間外入室状況

年 28 回、59 品目払出

(6) 医薬品購入・廃棄実績

購入：9,337,350 円 (税込)

廃棄：22,401.2 円 (薬価)

3) 教育研修担当実績

施設内教育研修 : 3 月 6 日 医薬品安全管理研修

実務実習・見学応需 : 18 名

5 栄養科業務の実績

管理栄養士 牧 由香

1) 勤務体制

常勤管理栄養士 1 名、常勤栄養士 1 名（委託）、常勤調理師 2 名（委託）

2) 業務実績

(1) 栄養管理

①栄養管理計画書作成

毎月入所者全員に対し、当月の体重・3 ヶ月・6 ヶ月前の体重との比較・摂取栄養量・摂取水分量、年 2 回行う健康診断の検査結果も参考にしながら栄養的な評価を行っている。

②支援計画書説明

支援計画書に記入している栄養ケア計画書は、栄養補給の内容・嗜好の変化等を記している。

(2) 給食管理

①お楽しみ食

毎月第四日曜日、旬の味覚メニューを嚥下食に調整し提供。15 時には季節のデザートを提供。（管理栄養士が事前に誕生月の方に 2 種類のメニューから選択していただいた方を提供）

②食事形態

「嚥下調整食学会分類 2021」と「発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食分類 2018」を融合させた施設独自の嚥下調整食を提供。軟菜食刻みは、軟菜食であっても咀嚼が難しく口腔内で食塊形成できない方を対象に提供している。

(3) 経管栄養・栄養補給食品

食品扱いの経管栄養剤、食事の時に提供する栄養補助食品の準備（名札つけ）

(4) 胃瘻注入食へ移行の取り組み

利用者の消化器症状の改善と、より快適な生活の実現を目的に、NST 褥瘡委員会で嚥下機能・栄養状態・胃瘻の状態などを多職種で評価し、微量栄養素を含む多様な栄養を摂取できる胃瘻注入食への移行を進め、注入内容や注入速度の調整に加えて注入開始後の体調や体重の変化を観察しながら段階的に注入食の割合を増やす取り組みを実施した結果、胃瘻注入食を実施する利用者は従来の 1 名から 4 名増加し、計 5 名となった。

3) ミールラウンド

おい歯科の摂食嚥下専門の歯科医師と共に昼食時にラウンドを実施。多職種で月 1 回、平均 9 名程度入所者のラウンドを行っている。経口摂取者はもちろん経管栄養のみでも口腔内・嚥下の状態などを多職種職者・参加している家族と一緒に確認し、適切な食環境や食事形態の提案・機能を促す訓練法等、摂食機能評価を行っている。

4) 褥瘡ラウンド前ミーティング

褥瘡委員会でラウンドする対象者を事前に決めるミーティングを毎月第三火曜日に行っている。検討資料として年 2 回の健康診断結果、毎月計測する体重の推移・必要栄養量、毎月の喫食量平均から導く摂取栄養量・摂取水分、カンファレンスの

内容を参考にし、ラウンド対象者を選出している。

5) 非常食の管理

災害時に備え、5日間分（朝・昼・夕）のメニューを作成し、非常食を常備し、適切な保管・管理を行っている。備蓄食品については、ローリングストック方式を導入し、賞味期限が近づいたものから順次入れ替えを実施している。入れ替え対象となった食品は日常の献立に組み込み提供する事で食品ロスの削減と非常食における食事への慣れの両立を図っている。

6) 職員食

一部セルフサービスとする事で適温提供を可能にした。また不定期で季節の食材を使ったメニューも提供している。

6 検査科業務の実績

科長 薄井 俊幸

1) 勤務形態

総合相模更生病院中央検査部 兼務 (臨床検査技師が輪番当番)

2) 業務実績

(1) 入所者

(件)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心 電 図	2	22	25	1		3	1	1					55
院内迅速血液検査	8	8	4	2	4	5	8		1	2	2	10	54
尿 検 査			1				1						2
マイコプラズマ		1											1
コロナ	22	22	20	15	30	17	23	18	16	9	24	5	221
インフルエンザ	6	5	2	1	6	3	4	4			9	3	43
その他													0
外 注 検 査	3	22	46	9	1	14	5	59	2	2	3	3	169
合 計	41	80	98	28	41	42	42	82	19	13	38	21	545

(2) 職員

(件)

種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心 電 図		63						28					91
聴 力 検 査		63						31					94
血 液 検 査		62						28					90
尿 検 査		58						31					89
外 注 検 査	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	18
合 計	1	248	2	2	2	2	2	119	1	1	1	1	382

- ・入所者には、入所時と入所中体調を崩した時に指示により心電図、血液検査、尿検査を実施した。
- ・職員の定期検診を実施した。夜勤勤務者は年2回、他は年1回実施した。
- ・検査機器のメンテナンス管理を実施した。
- ・試薬在庫管理、発注業務を実施した。

7 放射線科業務の実績

科長 鈴木 竜司

1) 勤務形態

総合相模更生病院 放射線科 兼務（診療放射線技師 14 名中 5 名にて輪番担当）

2) 撮影検査実績

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計 (件)
入所者	2	56	3	8	2	17	3	39	6	10	13	16	175
職員	6	63						32	6				107
合計	8	119	3	8	2	17	3	71	12	10	13	16	282

※昨年度と撮影検査実績数を比較すると、入所者 5 件減少、職員 7 件増加となった。

・撮影検査内容

入所者：入所時、フォローアップ、経過観察、健康診断などを行った。

職員：入職時検診、定期健康診断などを行った。

3) 使用機器

- ・(株) 島津製作所：MobileArt Evolution（ポータブル機器）
- ・コニカミノルタジャパン（株）：AeroDR 1417HQ 1 枚
- ・コニカミノルタジャパン（株）：CS-7 Portable 1 台
- ・コニカミノルタジャパン（株）画像サーバー：I-PACS EX 1 台
- ・総合相模更生病院閲覧端末：Infinit 3 台

上記の機器

- ・コニカミノルタジャパン（株）
- ・(株) 島津製作所

に関しては定期点検（年 1 回）をそれぞれ行った。

4) 放射線科 理念

「安心できる医療を提供する」 「質の高い画像を提供する」

5) 結語

これからも放射線科の理念に基づき入所者に、安心できる医療を提供したいと考えている。

8 リハビリテーション科業務の実績

リハビリテーション科長 日野 英明
作業療法士

1) 勤務体制

常勤 計 2 名 作業療法士 1 名
理学療法士 1 名

2) 業務実績

(1) 障害児者リハビリテーション料のリハビリテーション施設認可

①実施人数及び単位数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2025 年度	2024 年度
人数 (人)	合計	233	217	222	235	200	214	218	188	213	193	93	143	2369	2554
	OT	100	95	93	95	85	88	85	83	98	74	3	28	927	1075
	PT	133	122	129	140	115	126	133	105	115	119	90	115	1442	1479
単位数 (単位)	合計	688	640	652	694	594	635	644	555	631	574	279	429	7015	7564
	OT	300	285	279	285	255	264	255	249	294	222	9	84	2781	3253
	PT	388	355	373	409	339	371	389	306	337	352	270	345	4234	4311

※2026年2月1日～3月31日の期間、日野リハビリテーション科長が総合相模更生病院へ
出向。

常勤 1 名勤務となり脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)を算定。

介入実績は前年度と比較して、人数・単位数共に減少した。

(2) 各療法の実績

①各入所者への介入

各入所児者に対して概ね週 1 回（1 ～ 3 単位）以上の頻度で介入した。

②実施内容

運動機能評価・呼吸機能評価・ADL 評価・関節可動域訓練・基本動作訓練・歩行訓練・
呼吸リハ・摂食嚥下評価、訓練・各補装具のチェック・コミュニケーション支援

9 心理科業務の実績

公認心理師/臨床心理士 柴山 直子

1) 勤務体制

常勤の公認心理師兼臨床心理士 1 名

2) 業務実績

2025 年度の長期入所者に行った心理介入（心理検査、心理療法、及び行動観察）の実施延べ人数を表 1 に示した。10 月下旬から 12 月は公認心理師の不在（入院）で実施できない期間があり、実施延べ人数が低下した。それ以外の月は増減はあるが大きな差はなく実施している。

表 1 2025 年度心理介入の実施延べ人数（人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
心理検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
心理療法	47	52	42	48	51	49	31	0	5	53	47	54	479
人数合計	47	52	42	48	51	49	31	0	5	55	47	54	481

実施した心理検査は遠城寺式乳幼児分析的発達検査である。

心理療法は入所時情報及び心理検査結果や行動観察を含めた個別の心理アセスメントに基づき、個別に行っている。実施時間は入所者の心身状態に合わせて 10～30 分程度であった。実施頻度はアセスメントに基づき、月 1 回、2 週に 1 回、週 1 回と各入所者の個別性に合わせて決定した。

介入場所はスヌーズレン室や応接室、ベッドサイドなど、入所者の心身状態に合わせて対応した。

社会性やコミュニケーション能力の維持向上、情動性の安定、心地よい感覚の模索など、入所者のアセスメントに沿った個々の介入目標を立てて個別の心理療法を行った。イラストを用いた視覚認知や音楽を介しての聴覚療育、手遊びやシリコンおもちゃ、洗濯板ビーズを用いて触覚の療育、応用行動分析を行った。

10 事務課業務の実績

事務長 真田 哲也

1) 勤務体制

常勤事務員 4 名

2) 事務一般

人事記録・勤怠管理・給与計算・職員健康診査関連、入退職手続き、入所者の通帳・保険証等管理、窓口対応、保険請求、各種届出、監査・立入検査対応、業務委託管理、物品手配、PC 管理、送迎車運行表作成、車輛・駐車場・建物・設備機器管理等、総務・医事・経理業務を担っている。

3) 施設管理

(1) 定期点検・保守点検

- ・浄化槽保守点検を 2～3 回/月；計 26 回実施
- ・自家用電気工作物点検；6 回
- ・貯水槽清掃・浴槽水質検査；1 回
- ・簡易専用水道検査；1 回

(2) 医療ガス

- ・医療ガス供給設備保守点検；2 回

(3) 調査 ねずみ昆虫等点検調査；毎月

(4) 医療機器点検；島津ポータブル式 X 線装置

4) 防火・防災管理業務

(1) 消防用設備等点検実施 2 回 全て異常無し

- ・消防自主検査（2 回 4 月・10 月）
- ・消防用設備自主点検（2 回 5 月・11 月）

(2) 消防訓練を 1 回/月；計 12 回実施

5) 車輛・駐車場

(1) 施設所有車：送迎用 2 台、福祉車輛 1 台、軽福祉車輛 1 台

(2) 駐車場

- ・敷地内駐車場 2 階 4 台、3 階 7 台
- ・敷地外職員駐車場 21 台

6) 寄付の管理

ワゲン療育病院長竹家族会；寄付金

入所者ご家族；リフター用スリングシート（4 点）

7) 施設内教育研修担当実績

(1) 勉強会

2025 年 5 月 23 日「土砂災害対策研修」

2025 年 7 月 18 日「処遇改善加算勉強会」

8) その他

- ・ BCP 研修および訓練

2014 年の開院から 12 年が経過し、建物や設備・機器の不具合が目立ち始めている。社会情勢が不安定で物価上昇も続いており、R8 年度の診療報酬改定分ではこれらの整備・改修費を賄いきれない状況にある。経費削減を続けつつ補助金等を最大限活用して、運営に支障の無いよう努めたい。

Ⅱ 会議・委員会活動の実績

1 入所調整会議

生活支援課 短期担当 正保 美穂・和田 欣久

1) 目的

新規短期入所希望者の面談前の情報共有、短期入所希望者の利用可否の検討及び利用日程の調整、居室配置や入退所時間の確認を行い、安全に受け入れる体制を整えていく。また、短期受け入れに関して管理職で周知が必要な事を確認し、今後の対応に繋げていく。

入所調整会議にて決定した内容を基に現場含めて全ての関係職員が入退所日時や居室準備の内容を把握して対応できるように、会議後に一覧表や PC での院内メールで周知する為の基盤会議となる。

2) 構成員

施設長・看護部長・看護師長・生活支援課長・短期担当職員

3) 開催日時

通常開催 4/22、5/27、6/24、7/22、8/26、9/30、10/28、11/25、12/23
2/24、3/24

4) 活動内容

入所調整会議では、2 か月後の短期入所の入退所日程と時間や居室が現場の動きも含めて円滑に回す事が可能であるかを検討し決定する。初回入所者は検査を伴い、時間もかかる為、入退所日と受け入れ可能かの確認を行い決定する。

2025 年度は、施設内でのコロナやインフルエンザの感染蔓延は防げており、感染に伴う入所予定の変更やお断りはないが、入所前に行うコロナ抗原検査で陽性反応が出て入所不可となったのが 7 月 4 件、8 月 4 件、2 月 1 件ある。体調不良で入所前にインフルエンザ検査を行い陽性反応にて入所不可は 12 月に 1 件あった。また、3 月は職員人数が充足していない施設都合により、2 月末から 3 月初めにかけての連日入所予定者以外は希望受付を中止した。

5) 課題

職員人数の充足が得られず、2026 年度に向けて入所希望者のニーズに応えられない状況となり、それに伴って初回入所者の受け入れと、初回入所に至る前の事前面談が滞り、待機者が多数発生している。

職員人数の影響は安全面に繋がる為、特に医療度が高いケースの受け入れにも待機時間が生じている。環境が整い次第、ニーズに応じられるような対応が課題となっている。

2 教育研修委員会

看護師長 本多 薫
(副委員長)

1) 活動目的

社会福祉法人ワゲン福祉会 ワゲン療育病院長竹における、職員の知識技術の向上を目的に、教育研修委員会を設置している。

2) 構成員

施設長 看護部長(委員長) 事務長 看護師長(副委員長) 生活支援課長
生活支援係長 臨床心理士(書記) 看護師

3) 開催期日

4/3、5/8、6/4、7/1、9/2、10/7、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3

4) 活動内容

- (1) 2025 年度 施設内教育研修計画の立案、検討
- (2) 研修に関する調整、予算の協議
- (3) 各委員会が主催する(医療安全管理、感染対策、権利擁護・虐待防止、医療ガス、災害対策、医薬品管理、処遇改善、職場衛生)施設内教育研修の周知、実施
- (4) 法定教育研修のビデオ撮影、欠席者へのビデオ視聴の周知
- (5) 研修終了後のアンケート作成、回収と集計、評価
- (6) 研修、実習受け入れの調整、周知
- (7) 年度末に教育研修の評価と次年度の課題抽出

5) 課題

当日参加できない職員の研修終了後アンケートの記載について、Google のアンケートフォームを活用した。PC を活用し集計や意見のまとめが容易になり、研修の評価が深まった。次年度は web 講義の活用も検討し、職員が受講しやすく業務の間でも時間を有効活用できるような体制を整えていく。

3 感染対策委員会

看護師長 本多 薫
(副委員長)

1) 活動目的

- ・ 感染対策を実行し院内感染予防に努める
- ・ 全職員が感染対策を行えるよう活動を通して教育を行っていく
- ・ 感染症が発生した場合は速やかに対応し拡大を防ぎ終息に努める

2) 構成員

施設長（委員長）、事務長、看護部長、看護師長（副委員長）、薬剤科長、リハビリテーション科長、管理栄養士、生活支援主任、看護師

3) 開催期日

4/8、5/13、6/10、7/10、9/9、10/14、11/13、12/11、1/13、2/10、3/10

4) 活動内容

(1) 感染症マニュアルの見直しの実施

- ・ インフルエンザに感染した場合の職員・利用者の隔離基準の一部改訂
- ・ コロナ感染症マニュアル、厨房での対応（ディズポ食器の使用はしない）について変更・各論（疾患）：5 類感染症の届出基準等の追記

(2) ICT ラウンドについて

5、7、9、11、1 月実施

- ・ 手洗い・手指消毒は習慣化しているが手袋のサイズが合っていない職員がおり検討が必要
- ・ 環境ラウンドではほとんどの項目が出来ているため来年度は、内容やラウンド間隔の見直しを検討し、PPE 着脱などの訓練を検討する

(3) 「感染情報レポート」の発行

- ・ 年 1 回、委員長（施設長）発行を週 1 回の発行へ変更し熱発者情報など委員会で共有

(4) 感染症発生情報（週報）を 1 回/週、必要部署に配布し、委員会の中でも情報共有を行った。（薬剤科長担当）

(5) 院内研修年 2 回実施

- ・ 5 月：手指消毒（手洗い）実技訓練
- ・ 11 月：BCP 研修、PPE 訓練実施

5) 成果と課題

- (1) 感染症発生に備えたスタッフ個人や組織的な対応ができた
- (2) 感染症に対するマニュアルの作成・改訂の継続
- (3) 感染防止対策の他職種連携の推進継続

4 医療安全管理委員会

看護師長 本多 薫
(医療安全管理者)

1) 目的

医療安全管理に関する必要な事項を定め、適切な管理を推進するとともに安全な医療を提供に資する事

2) 構成員

施設長(委員長)、事務長、医療安全管理者、看護部長、看護師長、生活支援課長、薬剤科長、リハビリテーション科長、管理栄養士、臨床心理士、生活支援主任、看護師

3) 開催月日

4/8、5/13、6/10、7/10、9/9、10/14、11/13、12/11、1/13、2/10、3/10

4) 活動内容

(1) インシデント報告の共有、対策の検討、職員への注意喚起方法検討

(2) 今年度のレベル3以上の事例

・11月：長期利用者

右手背・手指の内出血斑を発見。施設長に報告し当直医の診察、X-P検査の指示があり右手根骨の骨折と診断。翌日、院外の整形外科を受診し、強い力で押した後引く力が加わったのではないかと推察。シーネ固定と整形外科通院を経て完治する

・インシデント検討会の実施

全スタッフに書面による、原因と考えられること、日常生活援助の中で考えられることなどの聞き取りを行いまとめたものを病棟会で共有した。

・対策：明確な原因は不明のままであったが、利用者自身ベッド柵の間から手を出すことが多くリスクが高いとして、柵の間は浴室マットを加工して塞いだ。その後、内出血斑や外傷等みられていない

5) 研修

7月：スライドボードの活用方法

2月：体験型 利用者目線で介助を受ける

6) インシデント・ヒヤリハットの状況（別表参照）

総評：療養上の世話について、普段何気なく実施していることがインシデントにつながるが多くあった。利用者の特性を把握し、細心の注意を図りながら介助の実施が必要であることを再確認するために「利用者目線で介助を受ける」体験を研修に取り入れた。日程の都合で1日のみの研修であったが、参加者からはいつも行っている業務で反省すべき点や利用者の反応を確認することの重要性を認識することができた。丁寧な看護・支援を今後も心がけていきたい。

インシデント・ヒヤリハットの状況

2025 年度		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
医 局	記録記載間違い													0
	用法・用量の間違い													0
	スタッフへの指示ミス													0
	その他													0
歯科														0
薬 局	調剤ミス(計数)													0
	調剤ミス(誤薬)													0
	破損 その他		1			1								2
栄 養 科	異物混入													0
	配膳(忘・遅れ・誤認・調理)													0
	その他													0
心理科/リハビリテーション科														0
検査科/放射線科														0
事務課								1						1
小計		0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
看 護 部	転倒転落													0
	検査													0
	機器取扱い													0
	薬剤					2	2				1			5
	療養上の世話(療育)		4	1	3		2	1	2	2	1	1		17
	治療処置(ケア)					1					1			2
	管理・報連相・連携・苦情													0
	破損													0
	誤認(氏名・物)				1									1
	チューブ管理					1		1			1			3
	栄養(注入取扱含)			1			1							2
	その他							1			1			2
小計		0	4	2	4	4	5	3	2	2	5	1	0	32
全 体	ヒヤリハット			1			1							2
	level 0		1	1	1	1	4		1					9
	level 1		4		1	2		2		2	4			15
	level 2				2	2		2			1	1		8
	level 3								1					1
	level 4/5													0
2025 年度 合計		0	5	2	4	5	5	4	2	2	5	1	0	35
2024 年度 合計		10	6	5	7	8	4	8	3	2	7	3	2	65

5 権利擁護・虐待防止委員会

生活支援課 和田 欣久

1) 目的

利用者の権利擁護及び職員の倫理向上に努め、虐待防止を図る。
また、身体拘束の適正化を検討する。

2) 構成員

施設長（委員長）・看護部長・事務長・生活支援課長・看護師・臨床心理士
生活支援副主任・生活支援員

3) 開催期日 （毎月の第4火曜日 10時）

4/22、5/27、6/24、7/22、8/26、9/30、10/28、11/25、12/23、1/27、2/24、3/24

4) 活動内容

(1) 人権／職場環境目安箱の活用による利用者支援や職場環境に関する問題点の抽出及び検討を実施。

・委員会開催前に目安箱の投書有無を確認し、投書があれば対応を検討する。
不適切ケアに関する意見が2件あった。

(2) 緊急時やむを得ない身体拘束が必要な利用者の再検討を実施。

・毎月のカンファレンスにて多職種による評価と検討を行っており、委員会内においても利用者毎に身体拘束の必要性有無について再検討を行う。
・委員会で管理している「拘束同意一覧」と家族に同意を得ている「拘束同意書」に相違がない事の確認を適宜行っている。

(3) 教育研修等

4月～3月 呼称(利用者及び職員への「さん」付け)の徹底

委員会年間目標として掲げ、施設内にポスターを掲示し周知を図った

4月 2024年度虐待防止セルフチェックシートの集計結果の報告

院内マニュアルの確認

6月 身体拘束研修：6/23（月）11:00～11:25 生活支援員担当

7月 障害者差別解消法研修：7/29（火）11:00～11:25 生活支援員担当

8月 障害者虐待防止法研修：8/12（火）11:00～11:25 生活支援員担当

10月 意思決定支援研修（1回目）：10/20（月）11:00～11:25 生活支援員担当

12月 児童虐待防止法研修：12/19（金）11:00～11:25 生活支援員担当

2月 虐待防止セルフチェックシートを実施（全職種対象に無記名で実施）

3月 意思決定支援研修（2回目）：3/25（水）11:00～11:25 生活支援員担当
虐待防止セルフチェックシートの集計結果の報告

5) 課題

研修の中では座学と共に演習を取り入れてきており、他職種同士で意見を交える事で日々の業務に活かす事ができた。虐待防止セルフチェックシートを通じて職員同士や上司との関係、利用者の支援に対する悩みが抽出された。職員の悩みを解決する手段として次年度も演習を取り入れていきたいと考えている。参加者が主体となる研修を取り入れていく事で、正しい知識や技術を身に付け、現場での実践に繋げていく。

6 衛生委員会

衛生管理者兼副委員長 宮地 正和

1) 目的

労働安全衛生法の規定に基づき設置し、労働者の健康障害、労働災害を防止するための基本となる対策などの重要事項について調査審議を行うこと

2) 構成員

統括管理者・委員長：施設長

管理職：産業医、薬剤科長（副委員長）

非管理職：看護師、支援員、事務員（労働者代表）

3) 開催日

原則、毎月第2金曜日に開催し、本年度は、4/11、5/9、6/13、7/11、8/8
9/12、10/10、11/14、12/12、1/9、2/13、3/13の計12回開催

4) 活動内容

(1) 衛生巡視

週1回各部署を巡視した

就業前の体操ができていないとの回答があった。容易にできる、腰痛予防「これだけ体操」の実施を看護部会・支援会から職員に周知

(2) 産業医巡視

月1回各部署を巡視

各フロア換気扇やエアコンのホコリの指摘があり、清掃

2階浴室側溝の汚れの指摘があり、清掃

(3) 健康診断

年2回実施

(4) 教育研修

6/4実施。以下の2本立て

・ストレスチェックソフトの学習動画「職場メンバーのメンタルタフネス度を高める～ネガティブな感情的行動を減らす～」

・産業医相談の紹介

(5) 熱中症対策

「発見」「判断」「対処」の手順を作成し掲示、ヘルプを呼ぶホイッスルの購入、

WBGTアラームの購入

(6) ハラスメント対策

投書箱への投書方法を変更

(7) ストレスチェック

オンライン上で年1回実施

(8) 職場環境改善

産業医巡視の指摘による改善以外はなし

(9) 入職者オリエンテーション資料

法人ハラスメント窓口、産業医面接指導の項目を改定

5) 今後の課題

ストレスチェックについて、職員がより利用しやすい体制を構築する

7 薬事委員会

薬剤科長 宮地 正和

1) 目的

本委員会は、施設長の諮問機関であり、医薬品の有効性・安全性の確保ならびに円滑な管理を行うことを目的としている。

2) 構成員

委員長 : 施設長
副委員長 : 薬剤科長
委員 : 看護師長、事務員

3) 開催日時

原則、隔月（偶数月）の第 1 火曜日に開催し、
本年度は、4/3、6/3、8/5、10/7、12/2、2/3 の計 6 回開催した。

4) 活動内容

（1）採用および削除品目数

原則どおりほぼ 1 増 1 減であった。

		新規採用品目数	採用削除品目数
院内限定	内服	13	12
	外用	2	2
	注射	4	5

（2）年度末時点の採用品目数

		採用品目数
院内限定	内服	88
	外用	42
	注射	33
	計	163

5) 今後の課題

数年来、供給が不安定な医薬品が続出しており、解消の見込みが立たない。
情報収集により医薬品の確保を第一としつつ必要に応じてメーカーの変更も検討する。

8 栄養委員会

管理栄養士 牧 由香
(副委員長)

1) 目的

栄養及び給食業務を適正に実施し、入所中の食事療養を実施する病院としてその趣旨の徹底を図り、より良いサービスを提供する。

2) 構成員

施設長（委員長）、生活支援課課長、生活支援員、看護師長、看護師 1 名、事務長、管理栄養士（副委員長）、安田物産

3) 開催期日 4/15、9/16、2/17

4) 活動内容

(1) 栄養・給食に関する課題検討

- ・おせち料理や行事食の提供方法等の検討
- ・季節を感じるデザートを楽しんでいただく食活動
- ・嗜好調査

(2) 施設内教育研修の実施

2025 年 5 月 23 日「土砂災害対策研修」にて非常食の設置場所・調理方法担当

(3) 嗜好調査の実施

経口摂取されている入所者 29 名を対象に 2025 年 3 月末実施。

① 調査内容

味覚嗜好（好きな味・嫌いな味）およびそれに関する好きなメニュー・嫌いなメニュー・好きなデザート嫌いなデザートを把握することを目的として実施

② 調査結果

好きな味：濃い味・甘い味

好きな食べ物：カレー・ハンバーグ・魚の煮付け・たこ焼き・パン

好きなデザート：ロールケーキ・プリン・ババロア・ムース・苺

嫌いな味：トマト味

嫌いな食べ物：酸っぱい和え物・柚子みそ

嫌いなデザート：お茶ゼリー・昼のフルーチェ

③ まとめ

嗜好調査の結果を参考にしながら、美味しく召し上がっていただけるような工夫とメニュー作りをさらに進めていきます。安全で満足度の高い食事の提供に向けて、改善と工夫を続けていきます。

9 NST・褥瘡対策委員会

看護師 奥野 智美
(副委員長)

- 1) 目的
 - ・院内褥瘡発生予防と早期治療に向けた対策の討議・検討
 - ・適切な栄養管理を行い、全身状態の改善、合併症を目指す
- 2) 構成員 施設長(委員長)、看護部長、看護師長
看護師(副委員長)、事務主任、薬剤科長、管理栄養士
リハビリテーション科長、生活支援課長、生活支援員
- 3) 開催日 2025年4/15、5/20、6/17、7/15、9/16、10/21、11/18、12/16
2026年1/20、2/17、3/17
- 4) 活動内容
 - (1) 全利用者に体圧分散マットを使用、マットレスの検討
 - (2) 排泄や入浴、更衣などケア時の皮膚観察と、褥瘡発見時の委員への報告
 - (3) 褥瘡対策の検討と各階スタッフによる継続した対策の実施
 - (4) 褥瘡保有者の褥瘡評価(毎週月曜日の写真撮影)
 - (5) 褥瘡治癒による評価終了の決定
 - (6) 褥瘡保有者とハイリスク者のラウンド
 - (7) 褥瘡保有者のラウンド前ミーティング
 - (8) 対象者の経口摂取量、嚥下状態、身体測定値、血液データから栄養状態の評価
 - (9) 利用者の栄養補給方法の提案、栄養摂取状況、全身状態の検討
 - (10) ミールラウンドへの参加。利用者の状況確認を行い委員会に反映する

5) 褥瘡保有と発生状況

(1) 褥瘡保有状況

	2025 年度	2024 年度
褥瘡保有人数	1 人	1 人
褥瘡件数(延べ)	5 件	3 件
短期入所の褥瘡悪化件数	0 件	0 件
入所時すでに褥瘡がある人数と件数	0 人 0 件	0 人 0 件
褥瘡再発件数	7 件	1 件
持ち込み褥瘡の治癒	0 人	0 人

(2) 褥瘡発生部位

(件)

発生部位 / 年度	2025	2024
仙骨部・坐骨部・腸骨部	3	2
足趾・内外踝・踵	2	2
腰背部・肩	0	0
耳	1	0
手指・指間・手	0	0
その他	1	0
計	7	4

6) NST 活動実績

(1) 介入件数 (件)

2025 年度	2024 年度
21	15

2025 年度 食事注入開始利用者件数：4 件

(2) ミールラウンド 12 回/年 参加

7) 課題

- (1) 褥瘡発生因子除去に対する意識の向上
- (2) 愛護的ケアと対策の継続実施
- (3) 経管栄養注入剤の検討、食事注入開始のための働きかけ
- (4) 必要水分摂取量の検討と見直し

10 初回支援計画策定会議・モニタリング会議・サービス担当者会議・支援計画原案作成・支援計画作成・移行支援計画原案作成・移行支援計画作成

サービス管理責任者：山下 貴浩

1) 目的

利用者及びその家族からの生活に対する意向を踏まえ、生活全般の質を向上させ、安心・安全な療育環境を提供できるように支援計画を立案する。総合的な支援の方針及び具体的な支援内容を検討・決定する。

2) 構成員

生活支援課長・生活支援係長・生活支援主任・サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者・担当生活支援員

3) 開催期日

初回支援計画策定会議は長期入所日までに実施している。

モニタリング会議及びサービス担当者会議は半年毎にスケジュールを立て期日までに適宜実施している。

4) 活動内容

(1) 初回支援計画策定会議

1 名の新規長期入所者に対し、事前情報や短期入所時の情報からアセスメントを行い、支援計画を立案する為の策定会議を実施した。

(2) モニタリング会議

6 カ月毎にモニタリング（支援計画の評価及び見直し）会議を開催している。

長期入所者 42 名に対し、延べ 84 名に実施した。

支援計画に対する評価及び見直しの議論を行っている。

(3) 支援計画原案作成

モニタリング会議の結果から、支援計画の基となる原案を作成している。

同時にアセスメントの更新も実施している。

(4) サービス担当者会議

支援計画の原案から、支援内容の意図や情報共有を行い、実現可能かつ具体的な支援内容を検討・決定している。

(5) 支援計画の作成（更新）

サービス担当者会議の結果に基づき、利用者のご家族の意向に沿った支援計画が作成できている。

意思決定支援に基づき、支援計画の説明の場においては、家族または成年後継人及び利用者にも同席をして頂く形をとり、支援計画の内容について了承を得ている。

(6) 移行支援計画原案作成

18 歳未満の利用者に対し、家族と学校の進路担当と今後の生活について確認した上で、モニタリング会議・サービス担当者会議を通して、移行支援計画書原案・移行支援計画書を作成している。

(7) 移行支援計画の作成（更新）

18 歳未満の利用者においては家族と学校の進路担当

(8) 会議議事録の作成と報告による支援方法の周知

各職員が閲覧できるように各会議議事録を作成し周知に務めた。更に毎月の病棟内カンファレンスで会議の決定事項を報告し支援方法の周知徹底に努め、専門職からも専門性を活かした助言を頂いている。

5) 今後の課題について

障害福祉分野での運営基準に意思決定支援が追加された為、全利用者に対し、意思決定支援の支援内容を含めた支援計画書を作成している。

今後も利用者や家族の意向がしっかり反映されている意思決定支援を意識した初回支援計画策定会議・モニタリング会議・サービス担当者会議を開催し、支援計画を作成していく。

また、2026 年度よりアセスメントシート作成時にサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者、利用者担当職員が同席し、利用者に意向を確認する場を設けて作成する事とする。

11 医療ガス安全管理委員会

事務部副主任 八木 佳彦

1) 委員会の目的

医療ガス設備の安全管理を図り、利用者の安全を確保すること

2) 構成員 事務長（委員長）、看護師長（副委員長）、施設長（監督責任者） 薬剤科科長、看護主任（実施責任者）、事務員（実施責任者）

3) 開催日 5/8、11/4

4) 活動

(1)勉強会実施

日 時 6月25日

テーマ 「医療ガスの取り扱いについて」

講 師 (株)商起産業

内 容 器具接続、脱着時の注意点、インシデント事例、事故例の確認

(2)点検

使用前 アウトレット

毎日 供給設備

保守点検（年2回） (株)商起産業実施

(3)通報

スタッフステーションの医療ガス切り替え通報ブザーが鳴り次第、商起産業へ連絡（利用者の人数、状態にもよるが2週に1回程度）

12 施設行事・ボランティア実行委員会

生活支援課 吉田 誠
(副委員長)

1) 目的

施設行事が安全かつ適正に遂行出来るよう計画・準備・実施・評価をする。
また、活動ボランティアの受け入れ予定の連絡・実施後の報告をする。

2) 構成員

施設長・看護部長・生活支援課長（委員長）・看護師長・看護師
生活支援員 2 名（内 1 名副委員長）・理学療法士・事務員

3) 開催期日 （奇数月の第 4 火曜日）

4/22(臨時開催)、5/27、6/24(臨時開催)、7/22、8/26(臨時開催)、9/16(臨時開催)
9/30、11/25、1/20、3/24

※臨時開催は納涼祭計画での検討事項が多い為開催となる。

4) 活動内容

(1) 年間行事計画策定

- ・ 4 月：カラオケ大会（4/20）
 - ・ 5 月：菖蒲湯（5/1、5/2）
ボランティアによるマジックショー（5/18）
 - ・ 6 月：カラオケ大会（6/15）
父の日カード製作（6/9、6/11、6/12）
 - ・ 7 月：水鉄砲で射的（7/20）
地域交流 お囃子（7/27）
 - ・ 8 月：水鉄砲で射的（8/17）
 - ・ 9 月：納涼祭及び夕涼み会（9/28）
 - ・ 10 月：ハロウィンで仮装大会（10/19）
ハロウィンで仮装大会（10/26）
 - ・ 11 月：玉入れ大会（11/16）
 - ・ 12 月：カーリング大会（12/21）
ゆず湯（12/22、12/23）
 - ・ 1 月：初詣（1/1 及び 1/2 長竹神社）
書初め（1/5、1/7、1/8）
成人式（1/18）
 - ・ 2 月：カーリング大会（2/15）
 - ・ 3 月：野球大会（3/15）
- ※1 階及び 2 階フロアと 3 階フロアの 2 グループに分け隔月で開催

(2) 納涼祭：9/28 開催

- | | |
|--|-------------|
| ・ 防災をメインとした展示。施設内防災やハザードマップ、キャンプグッズ等展示 | |
| ・ 地元自治会への説明 | ・ 展示物の決定 |
| ・ 納涼祭ポスター作成 | ・ 病棟レイアウト作成 |
| ・ 納涼祭プログラム作成 | ・ 役割分担表作成 |

- ・職員タイムテーブルと職員配置表作成
- ・各会場の準備及び飾り付け
- ・当日配布用冊子作成
- ・納涼祭収支報告
- ・外部事業所等へのポスター配布
- ・ボランティアへ参加依頼

(3) 春・秋のバス遠足

- ・新型コロナ感染症対策の為、計画・実施せず。

(4) ボランティア

- ・タマテバコさんによるマジックショー (5/18)
- ・風船番長さんによるバルーンアートパフォーマンス (9/28 納涼祭内)
- ・ウクレレマイスターズさんによるバンド演奏 (9/28 納涼祭内)
- ・青森南部会さんによる津軽三味線パフォーマンス (9/28 納涼祭内)

5) 今後の課題

- ・感染症流行時でも利用者が楽しめる施設行事及び季節行事を提供していく。
- ・新型コロナ対応の緩和に伴いボランティアの依頼を増やしていきたい。
- ・活動物品の精査、長竹神社等の作り直しを行っていく。

13 防災対策委員会

事務部副主任 八木 佳彦

1) 活動目的

火災・災害時に入所者の安全を念頭においた初期対応・避難誘導が実施できるよう訓練を企画する。

2) 構成員

施設長、看護部長、看護師長、生活支援課長、栄養科、生活支援員
事務長（委員長）、事務員

3) 開催日 4/3、9/2、2/3

4) 活動内容

- (1) 防災計画、防災対策マニュアルの策定と職員への周知
- (2) 入所者の避難誘導訓練計画策定（月 1 回訓練実施）、シナリオ、役割分担等作成
- (3) 想定（平日、夜間、休日）別防災訓練の企画・実施
- (4) 災害（人災・天災）時対応並びに予防対策と訓練（情報伝達訓練メール）
- (5) 避難通路の確保（段差対策・物品）
- (6) 月例の防災・避難誘導は全職員参加と観察者立ち合いによる評価
- (7) 避難確保計画（土砂災害）の作成・更新・周知
- (8) 事業継続計画（BCP）の作成・更新・周知
- (9) 非常食マニュアルの策定

14 情報管理・広報委員会

リハビリテーション科 加藤 友三郎
(理学療法士 副委員長)

1) 目的

診療記録等の診療情報資料（カルテ・各種帳票類の書式）の記載方法、運用方法などに関して適正かつ効率的に管理し、診療情報管理業務の円滑な運営を図る。また、紙媒体に限らず映像や電子データも含めた情報の管理も行う。
施設の運営状況や利用者支援活動を家族、関係者、地域住民に対して広報活動することで、理解を深め、協力していただける関係づくりを積極的に行う。

2) 構成員

施設長・支援課長（委員長）・事務長・看護部長・看護師長・理学療法士（副委員長）・支援員

3) 開催期日 隔月 1 回（第 2 火曜日）

4) 活動内容

（1）ホームページ更新（以下 HP）

・「短期入所受入れ再開(2026 年 4 月より)のお知らせ」を追加

（2）広報誌

・月 1 回発行し、家族に郵送した

（3）情報管理

・院内マニュアルの更新を行った
年 1 回で確認することとなっている

5) 今後の課題

- ・ SNS をしたいという職員の意見があり検討する（活動状況、写真、職員募集等）
- ・ 広報誌の部分でインターネットからイラストを取っているが著作権フリーかどうか確認する必要がある
- ・ 広報誌は次年度(2026 年度)より年 4 回の発行とし、活動時の写真のみではなく状況を報告できるよう文章充実を検討。写真の説明が少ないのでより充実していく

15 診療録管理委員会

看護師 山本 純久

1) 活動目的

診療情報及び診療記録の業務を適正かつ円滑に運営する。
標準的な診療及び治療方法について院内で周知し、適切なコーディングを行う。

2) 構成員

施設長（委員長） 参与 看護師長（副委員長） 事務主任 薬剤科長
生活支援課長 看護主任

3) 開催期日

6/10、9/9、12/9、3/10

※ 6 月、3 月はコーディング会議も併せて実施

4) 活動内容

- (1) コーディング会議開催
- (2) 入退所に伴う様式 1 作成、検討
- (3) カルテ綴り方マニュアル改定
- (4) カルテ保管庫管理
- (5) カルテ整理
- (6) 廃棄書類の選定、廃棄

5) 総括と今後の課題

カルテ内文書が増えていく中で保管場所の確保が課題となっている。保管年数を過ぎた文書から順次破棄をして、保管スペースの確保をしている。その中でまだ情報として必要な書類も多く、主治医の意見を元に仕分けを実施している。コーディング会議で再入所した利用者の情報交換や共有も実施、今後も速やかに情報が得られるように、診療録の整理と管理を継続していく。

Ⅲ 所属団体・学会、研究業績等

1 所属団体

団体 \ 職種	医師	薬剤師	看護職員	生活支援員	臨床心理士	管理栄養士	作業療法士	理学療法士
神奈川県重症心身障害児者協議会 *	○	○	○	○		○		○
日本重症心身障害福祉協会 *	○		○	○				
日本医師会	○							
神奈川県医師会	○							
相模原市医師会 *	○							
相模原市病院協会 *	○		○					
相模原病院協会看護部長会 *			○					
相模原市福祉事業所協会 *			○	○				
日本病院薬剤師会		○						
神奈川県病院薬剤師会		○						
日本看護協会			○					
神奈川県看護協会			○					
神奈川県看護部長会			○					
日本臨床心理士会					○			
日本栄養士会						○		
神奈川県栄養士会						○		
日本作業療法士協会							○	
日本理学療法士協会								○
相模原市重心ネットワーク *				○				

* 施設として入会

2 所属学会

団体 \ 職種	医師	薬剤師	看護職員	生活支援員	臨床心理士	管理栄養士	作業療法士	理学療法士
日本外科学会	○							
日本小児外科学会	○							
日本重症心身障害療育学会						○		
日本医療薬学会		○						
日本摂食嚥下リハビリテーション学会							○	
日本心理臨床学会					○			
日本臨床動作学会					○			
日本看護学会			○					

IV 特別支援学校

神奈川県立津久井支援学校 教諭 清水 悠希子

1 津久井支援学校の児童・生徒数

2025年5月1日現在

区分	知的障害教育	肢体不自由教育	訪問教育	合計
小学部	5	1	0	6
中学部	4	3	0	7
高等部	44	2	1	47
合計	53	6	1	60

2 ワゲン療育病院長竹に入所している生徒

令和7年度は、本校教員が施設を訪問して授業を行う訪問教育対象の生徒1名（高等部3年）が在籍している。

3 令和7年度の教育活動

1) 訪問教育の授業

家族室で、週3回（月・水・金）、各1時間（午後1時半～2時半）の授業を行った。自立活動を中心に、関連する教科を合わせた指導を行い、日課は、はじめの会、生活、からだづくり、終わりの会で構成した。

生活の「音楽」では、鉄琴やトーンチャイム等の楽器を使い、音の響きを感じながら演奏を楽しむことができた。また、本校の太鼓の授業に分身ロボット OriHime を使ってリモート参加し、画面越しににこやかな表情を見せることができた。「美術」では、砂絵や習字、粘土、フェルトを使った制作を行い、様々な素材の感触を味わいながら取り組むことができた。

からだづくりでは、ボールプールやスヌーズレンルームのウォーターベッドに仰向けの姿勢になり、全身で揺れを感じる活動を行うと、筋緊張が緩み、リラックスした状態を示すことができた。

2) スクーリング

施設看護師の同行のもと、計2回スクーリングを実施することができた（7月：同級生との交流、9月：学校での昼食）。

クイズや写真撮影をしてやり取りを楽しむとともに、同級生や教員の呼びかけに反応して声の方向に顔を動かす様子が見られた。また、学校看護師とも関わり、昼食や乗換の場面でも安定した様子で関わりを受け入れることができた。

3) 修学旅行

10月に、保護者、担任、管理職、学校看護師と共に、藤野芸術の家で日帰り修学旅行を実施し、陶芸体験や昼食、屋外散策等の活動を行うことができた。

陶芸では陶土の冷たさを感じて口元を動かす様子が見られ、屋外散策でも光や風を感じて心地よさそうな表情を浮かべるなど、これまでの学習で培ってきた応答の表現を生かして参加することができた。

V 神奈川県重症心身障害児者関係施設協議会の活動

幹事 高橋 博行
(生活支援課課長)

1) 活動目的

神奈川県内の重症心身障害児者に関わる諸施設が、サービス向上や社会的啓発を目指すための協議会である。病院・社会福祉法人が運営する療養介護事業所・医療型障害児入所施設や生活介護事業所が学びあい連携し、県内重心福祉の充実を図っている。

各部会がテーマ別に1年を通して会合を開き、情報・意見交換を行い職員の資質の向上及びサービスの質の向上に役立てる。

2) 活動内容

- (1) 機関紙「神奈川の RYOUIKU」の発行(年1回)
- (2) 行政や各関係機関との連絡会議の開催(年1回)
- (3) ニーズ調査・実態調査・研究事業(適宜)
- (4) 重症心身障害看護師認定制度の推進

3) 活動実績

(1) 総会 2025年4月18日(金)

横浜医療福祉センター港南、webのハイブリット開催

内容：①2025年度事業報告

②2025年度 会計報告及び監査結果報告

③会長改選

④2026年度 事業計画案

⑤2026年度 予算計画案

⑥その他検討・確認事項

・副会長(通所)の交代について

・神奈川の RYOUIKU 第48号について

・医師連絡会、施設長会について

(2) 施設連絡会 第1回 2025年9月12日(金)

横浜医療福祉センター港南、webのハイブリット開催

内容：①行政説明(令和6年度報酬改定について)

②2025年度関係機関との連絡会について

③2025年度研修について

④各部会運営について

⑤2026年度日本重心障害福祉協議会全国施設協議会について

⑥2026年度協会認定重症心身障害看護師研修について

⑦その他

施設連絡会 第2回 2026年2月13日(金)

ウイリング横浜、webのハイブリット開催

内容：①行政説明(個別支援計画作成にあたって、入所調整会議について)

②2025年度会計中間報告および2026年度施設負担金について

③2026年度協議会・部会運営について

- ④2026 年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会の運営について
- ⑤その他検討事項・確認事項

(3) 幹事会

- 内容 協議会運営（各部会、研修など）関係機関との連絡会アンケート実施、ホームページの運用について、R8 年度全国協議会の運営準備
- ・ 2025 年度年間 12 回開催（現地集合・web 会議・ハイブリット開催）

(4) 事務長会

- 内容 施設経営、運営等についての情報交換・意見交換
- ・ 2025 年度年間 2 回開催（web 会議）

(5) 看護師長会

- 内容 重症心身障害認定看護師研修運営、看護管理情報交換等
- ・ 2025 年度年間 7 回開催（現地集合）

(6) 入所施設部会

- 内容 より良い支援のために、各施設の課題についての情報交換・意見交換
- ・ 2025 年度年間 5 回開催（現地集合）

(7) 通所部会

- 内容 より良い支援を行うために情報交換・意見交換
- ・ 2025 年度年間 5 回開催（現地集合）

(8) 看護部会

- 内容 看護の質の向上のため、各施設での看護実践の現状を踏まえた情報交換をおこなう
- ・ 2025 年度年間 4 回開催（現地集合）

(9) 栄養士部会

- 内容 栄養管理（エネルギーの設定）について情報共有・意見交換
- ・ 2025 年度年間 2 回開催（web 会議）

(10) リハビリテーション部会

- 内容 各施設の情報交換・意見交換・今後の部会の方針について
- ・ 2025 年度年間 2 回開催（web 会議）

(11) 薬剤師部会

- 内容 各施設の情報交換・意見交換
- ・ 2025 年度年間 2 回開催（web 会議）

(12) 施設長会

- ・ 実践報告会会場にて顔合わせ

(13) 関係機関との連絡会

日時 2025 年 11 月 14 日 (金)

開催方法 神奈川産業振興センター・web のハイブリット開催

出席：神奈川県福祉こどもみらい局障害サービス課福祉施設グループ

神奈川県福祉こどもみらい局障害生活支援グループ

横浜市こども青少年局こども福祉保健部障害児福祉保健課

相模原市高齢・障害者福祉課

横須賀市民生局福祉こども部障害福祉課

横須賀市児童相談所相談係

神奈川県重症心身障害児（者）を守る会

重心協加盟施設 23 施設

関係機関 12 名 当協議会 59 名 計 71 名

- 内容 ① 県による昨年度から現在までの施策に対する進捗状況等の説明
② 重心協から現状報告（重症心身障害児者を取り巻く現状と課題/実践報告）
③ 重心協からの質問事項について関係機関からの説明・質疑応答

(14) 研修会

・実践報告会

日時 2025 年 9 月 20 日 (土)

開催 ラスカ茅ヶ崎ホール 6 階レンタルスペース

基調講演 「茅ヶ崎支援学校での取り組み
—小学部から高等部までの学びのつながりと進路支援—」

実践報告 「利用者のより豊かな生活を目指して」(9 演題)

・交流研修会① (入所)

日時 2025 年 12 月 3 日 (水)・11 日 (木)

開催 ライフゆう

内容 入所施設利用者の日常生活の見学・支援、意見交換

職員交流研修② (通所)

日時 2025 年 11 月 4 日 (火)・11 日 (火)・18 日 (火)・20 日 (木)

開催 水平線

内容 通所施設利用者の日常生活の見学・支援、意見交換

職員研修会

日時 2026 年 2 月 12 日 (木)

開催方法 横浜医療福祉センター港南

内容 意思決定支援について
・各施設での取り組みの共有、グループワーク

講師 社会福祉法人みなと舎

理事長 森下 浩明氏

(15) 神奈川の RYOUIKU 第 49 号 (web 版) 2026 年 4 月公開

2025 年度（第 12 号） 年報

発行年月 : 2026 年 6 月

発行者 : 社会福祉法人ワゲン福祉会 ワゲン療育病院長竹 施設長 村上 研一
〒252-0154 神奈川県相模原市緑区長竹 4 9 4 - 1

電話 0 4 2 - 7 8 4 - 7 2 2 7

FAX 0 4 2 - 7 8 4 - 3 8 0 0

ホームページ

<http://www.wagen.or.jp/nagatake>

編集委員	責任者	村上 研一	施設長
	委員長	真田 哲也	事務長
	副委員長	平川 千鶴子	看護部長
	委員	石山 美代子	参与
		本多 薫	看護師長
		高橋 博行	生活支援課長
		加藤 友三郎	理学療法士
		馬上 歩	事務課主任

編集委員会 第 1 回 2026 年 2 月 10 日
第 2 回 2026 年 6 月 2 日
第 3 回 2025 年 6 月 16 日

〈編集後記〉

昨年度から年報編集委員会の委員長を事務の真田事務長が務めることとなり、年報の編集作業が飛躍的に効率的になりました。

編集委員会での複数にわたる校正作業も、アプリの校正機能に加えて訂正前後の資料を配布することで各委員の回覧も効率化され、例年よりも大幅に早いペースで編集作業が進み予定よりも早く年報を刊行することができました。

このような年報の編集作業の変遷も施設の歩みの中での大切な一面であり、これまでの紆余曲折を経てからこそその進化であると考えています。

「温故知新」という言葉がありますが、施設の歩みを振り返りながら少しずつ新たな目標を持って進むことが大切であると、あらためて感じた次第です。

全ての寄稿者と編集委員の皆様のお力添えに感謝致します。本当にありがとうございました。

今後ともよろしくお願い致します。(村上)